

HP 掲載用

令和3年度 事業報告書

社会福祉法人 緑友会

令和4年6月16日 評議員会承認版

目 次

はじめに	3
法人本部	3-15
役員会（理事会・評議員会）	3-4
特記事項 要件	4-7
職員人事 入退職	8
職員配置状況	9
職員研修（1 外部研修）	10-12
職員研修（2 対外研修）	12
職員研修（3 特養内部研修）	12
職員研修（4 ヘルパー内部研修）	13
職員研修（5 研修委員会 総評報告）	14-15
防災訓練	15
小川ホーム	16
1. 入所者の状況	17-19
2. 処遇の状況	19-24
3. 実習生・ボランティアの受け入れと地域福祉	25
4. 各係	25-28
5. 栄養・給食関係	28-30
短期入所生活介護	31
小川ホームデイサービスセンター	32-34
1. 月別実績	33
2. 要介護度・年齢別利用者数	33
3. 移動方法別利用者数	34
4. 地域別利用者数	34
5. 行事	34
小川ホームホームヘルプサービス	35-37
小川ホーム介護計画センター	38-40
地域包括支援センター小川ホーム	41-52
1. 月別実績	49
2. 要介護度分類	49
3. 相談実績	49-52

はじめに

令和2年1月16日初めて国内初の新型コロナウイルス陽性者が報告されてから、既に2年半が経とうとしています。当初得体の知れない恐怖の感染症は、変異しながら世界人類の生命を脅かし、社会経済を揺るがすような、今まで経験したことのない災禍となりました。時が経ち感染のメカニズムが解明され、ワクチン接種が始まり、未だ不完全ながら初期治療薬も開発され、マスクを外し国内外の動きを活性化する兆しも見えてきました。これらコロナ禍とその後の世界情勢の緊張による影響で、エネルギーや電子部品の流通不足や円安により、国内では入手困難や価格高騰が発生し、当法人の運営にも少なからず影響が発生し、回復は簡単なことではありません。

令和3年度中には緊急事態宣言やまん延防止施策により、幾度かの進退を繰り返しながら、ウィズコロナの考えが始まり、無観客の五輪や入場制限のイベントが開催されるようになり、予防対策を講じながら社会生活も継続する時代が始まりました。在宅勤務の考え方や、Web会議を用いた技術と文化が根付き始め、当法人でも令和3年度に一部導入を行いました。令和4年度には小川ホームでデジタル記録の導入をする運びとなっており、近い将来、在宅サービスでもタブレット端末を携行し、記録や評価を行う時代となることが予見されます。

私たち社会福祉法人は、地域住民から頼りにされる福祉拠点として在り続けるために、ウィズコロナ対策を講じ、デジタル文明を取り込みながら、働く環境を整え職員体制を維持し、地域の活力と知恵を集結しながらネットワークの創造を続けていく必要があると考えます。

この事業報告書を暦年の記録と比較し、以降の法人運営の課題分析の糧となるよう記録し公表致します。決算記録と合わせて様々な立場で過去から現在を検証することで、これから先に支援を必要とされる地域の方々へ、有効なサービス提供が継続して行えることに力を尽くしてまいります。

法人本部

○役員会

法人及び各事業運営についての諸議案が審議、決議された。

回数	開催日	出席状況	主な議題（概要）
2	評議員選任 ・解任委員会 令和3年 4月23日 (金) 午前11時～	出席 委員3名 (2名 Zoom) 理事2名 (1名 Zoom)	第1号議案 時期評議員選任
102	理事会 令和3年 5月28日 (金) 午後5時15分～	出席 理事6名 (1名 Zoom) 監事2名	第1号議案 前回理事会以降の高額な出納について（承認案） 第2号議案 令和2年度 事業報告書（案） 第3号議案 令和2年度 計算書類（貸借対照表、収支計算書、及び附属明細書）及び財産目録（案） 第4号議案 令和2年度決算における積立金、積立資産、引当金に関する案 第5号議案 令和2年度 社会福祉充実残額の確認案 第6号議案 令和2年度事業に関する監事監査報告、及び純資産証明額・資産登記の確認案 第7号議案 理事、監事の任期満了に伴う選任推薦案 第8号議案 第18回定時評議員会開催案 第9号議案 令和3年度積立資産取崩し見込み内容（案）

			①施設設備機器備品更新 ②科学的介護加算取得に向けてのハード及びソフト整備
18	評議員会 令和3年 6月18日 (金) 午後3時～	出席 評議員7名 (2名 Zoom) 理事2名 監事2名	第1号議案 評議員会 議長選出 第2号議案 評議員会 議事録署名人選出 第3号議案 令和2年度 事業報告書(案) 第4号議案 令和2年度 計算書類(貸借対照表、収支計算書、及び付属明細書) 及び財産目録(案) 第5号議案 令和2年度決算における積立金、積立資産、引当金に関する案 第6号議案 令和2年度 社会福祉充実残額の確認案 第7号議案 令和2年度事業に関する監事監査報告、及び純資産証明額・資産登記の確認案 第8号議案 理事、監事の任期満了に伴う選任の件
103	理事会 令和3年 6月18日(金) 午後4時30分～	出席 理事6名 (1名 Zoom) 監事2名	第1号議案 理事長選定 第2号議案 業務執行理事選任
104	理事会 令和3年 7月28日(水) 書面開催	出席 理事6名 監事2名 全員承諾	第1号議案 定款施行細則 第29条に定める支出に係る決裁基準表(案) 第2号議案 役員・評議員の報酬等及び費用弁償に関する規程(案) ①第2条への文章の追加 ②別表第3 非常勤役員等の報酬の改定
105	理事会 令和4年 2月19日(土) 書面開催	出席 理事6名 監事2名 全員承諾	第1号議案 積立金取崩、補助金交付及び高額な出納について(承認案) 第2号議案 令和3年度 第1回補正予算(案) 第3号議案 令和4年度 業務委託 指名競争入札実施案 第4号議案 令和4年度 ミャンマー人介護実習生受入れに関する案
106	理事会 令和4年 3月30日(水) 午後1時～	出席 理事6名 (1名 Zoom) 監事2名	第1号議案 補助金及び高額な出納について(承認案) 第2号議案 令和4年度 事業計画(案) 第3号議案 令和4年度 収支予算(案) 第4号議案 令和4年度 給食サービス提供業務入札結果報告・契約に関する案 第5号議案 令和4年度 外部委託業務の見積比較報告・契約に関する案 第6号議案 介護保険業務に係るシステムのリース契約に関する案 第7号議案 役員等の賠償責任保険の加入に関する案

○評議員選任・解任委員

令和3年6月18日評議員任期満了に向けて、令和3年4月23日に評議員選任解任委員会を開催し、次任期の評議員を選任している。評議員選任を行ったのは、逢坂範子外部委員、基太村壽三郎監事、高橋直樹事務長であった。

なお令和3年6月18日から令和7年定時評議員会終結の時までを任期とする委員は西澤三子外部委員、基太村壽三郎監事、長嶋弘樹庶務課職員の3氏となっている。

○評議員

令和3年6月18日に評議員会を開催し、下記の評議員7名各氏により令和2年度の決算に関する議案の決議をして頂いている。なお評議員全員が再任となり、任期は令和3年6月18日から令和7年6月に開催予定の定時評議員会の終結の時までとなっている。

赤木 真 出竿章雄 栗田正夫 澤田尚敏 田中信明 土川洋子 檜山則明

○理事・監事

令和3年6月18日任期満了に伴い理事長が退任し、新たな理事1名を加えた中から理事長、業務執行理事が選出され、次表の各氏が着任されている。

任期は令和5年6月に開催予定の定時評議員会の終結の時までとなっている。

役員	令和3年6月18日まで		令和3年6月18日から	
理事長	菅野徹夫		増田英男	
業務執行理事	小林美穂		小林美穂	
理 事	市東和子	関谷栄子	荒武宗昭	市東和子
	高木好男	増田英男	関谷栄子	高木好男
監 事	基太村壽三郎	森杉美保	基太村壽三郎	森杉美保

○新型コロナウイルス、インフルエンザ、肺炎球菌性肺炎の感染対策

令和3年新型コロナウイルス感染に対する東京都の対策は以下のとおり継続的に宣言が出されていた。

まん延防止等重点措置	新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言
4月12日から4月24日まで	4月25日から6月20日まで
6月21日から7月11日まで	7月12日から9月30日まで

これらの措置や宣言の期間のみならず、小川ホームでは年間を通し感染症対策委員会を定期開催し、決議された対策を実施している。予防に向け、マスク・シールド着用、食席対策、会議・研修・実習受け入れの方法、毎朝昼の消毒活動、定時窓開け換気、飛沫接触予防策、三密回避、少人数送迎、全員検温記録、手洗消毒の徹底、外来者の入館制限、必須業者の入館記録など、多くの時間を費やし予防対策を行っている。

PCR検査と抗原検査は行政の補助金を用い、キットを購入し備え置き、有症状者や新たにサービスを受ける利用者に対し、積極的迅速に検査を行っている。勤務者とその近親者が発症またはその疑いがあった際には、勤務の見合わせや期間を定めて在宅勤務や自宅待機をお願いし、他職員と接触しない予防対策を講じている。これらの対応の成果として、利用者と勤務者共に新型コロナウイルス感染が診断された者は発生していない。

ワクチンは市の確保数により左右されたが、福祉施設や高齢者優先枠を用いて、小川クリニック、みどり内科クリニックの協力を受け、1回目は令和3年5月、2回目は令和3年6月、3回目は令和4年1月に小川ホーム内で接種を行った。後発の入所者、入職者に対しても個別にワクチン接種を実施している。また一人暮らし等の通所介護や訪問介護の利用者については、集団接種会場までの送迎支援を小平市からの受託事業として行っている。

予防衛生活動に欠かせない石鹸、消毒剤、予防衣など入手に相当な経費支出があったが、東京都と2回の小平市からの補助金を用い、かなりの部分が費用補填されている。

インフルエンザ感染予防については、新型コロナとのダブル感染リスクも懸念されるため、特養利用者と職員全員を対象に南台病院の下山院長にお願いし、小川ホーム内で令和3年11月と12月に計3回に分けワクチン接種を実施した。

肺炎球菌性肺炎については、入所時にワクチン接種歴を確認し、定期的接種の要請を利用者家族に行い実施している。

○労働の安全衛生と処遇

新型コロナ感染対策については、安全労働の観点からも予防的衛生活動を検討し行っている。年度の後半から顔や目のシールドを着用し、職員の感染予防フェーズを引き上げている。また有事に備えてN95マスク、予防衣等の備蓄を進めているが、流通の遅れや不安定な社会情勢の影響があり、品不足と価格高騰で入手困難な状況が散発している。また、内部感染があった施設の体験談を参考に、予防のノウハウや予防衣着脱の研修の開始を始めている。

職員処遇改善は、介護職員には継続して通年で処遇改善及び特定処遇改善の介護保険加算を受け、それを手当等の賃金に反映している。また令和2年度決算で特定積立を行い、これを用いて非介護を含めた職員に対し賃金手当てを行っている。令和3年度の決算でも可能な範囲で処遇積立を行い、令和4年度の賃金改善の準備を行っている。

法定ストレスチェック・健康診断・腰痛検診について実施しているほか、希望する対象職員には、女性検診、節目検診が受診できるよう、協会けんぽ制度も活用し指定クリニックでの受診と疾患の早期発見を勧めている。また、予防接種については法人負担で小川ホームを会場として行っている。

○介護職員の業務負担の軽減策

東京都の次世代介護機器導入促進事業補助金を活用し、身体介護で職員の腰に掛る負担を軽減する目的で、マッスルスーツ類6組を導入した。介護負担は全国的課題でもあり、職員が永く健全に就労するための対策となっている。

○介護人材不足と外国人留学生、派遣職員の利用

介護人材不足は依然解消せず、緊急事態宣言等で失職者が多くなるなかでも、福祉の担い手としての移行者は少ない。令和3年夏にハローワークと連携していただき、集団面接会を実施し10余名の応募のうち3名を採用している。これをきっかけにハローワーク経由の応募が増え、以前と比較して職員の成り手は増えている。

平成30年度から来日のベトナム人留学生1名は、介護専門学校を卒業し、介護福祉士資格取得のうえ、4月より常勤として勤勉に就労している。続く留学生の招聘も進めており、コロナ禍で入国が困難な局面ではあるが、令和4年4月よりミャンマー人留学生が来日し、日本語学校1年、介護福祉学校2年就学の後、常勤就労の見込みとなっており、学費等の貸付や生活の便宜提供を理事会決議を経て進めている。

また、特に特別養護老人ホームで、介護、看護の人材が不足し打開策のないときは、期間従業員スタッフの加勢を受けるため、複数社と契約し職員派遣を受けている。

○Web研修、会議

ウィズコロナ社会に入り、ほとんどの会議や研修、事業説明会や面談が、Webミーティングで賄われるよう移り変わってきた。多くをZoom等のソフトを用いPCで対応できるよう、周辺機器、各階無線Wi-Fi、ノートPC増設等を行い、事業所毎にメールアドレスを新規整備している。

○小川ホーム利用者定員変更

コロナ禍でのショートステイは利用控えが続き、市中感染が解消するまで稼働増が見込めず、小川ホームは多数の入所待機者がいる状態となっている。このことから令和4年4月14日に認可を受け、令和3年5月から小川ホーム定員77名、ショートステイ定員4名として運営している。

○面会・面談

昨年に続き感染予防対策で入館制限をせざるを得ない中、都内での感染が減少傾向の時には、静養室内に中仕切りを設け家族面会を行った時期もあった。感染が拡大に転じた時点で窓越し面会に戻しているが、天候に左右されたり、声が聞こえづらかったりするため改善の余地が多い。

Web面会を各フロアでできるよう機械整備は行ったが、ご家族の年齢層によりお手元のスマホ等の操作が難しい場合もあり、利用率は高まってはいない。

○IT化

特にコロナ禍でIT環境が進化する中、デスクトップ7台、ノート1台のパソコン更新を行った。経費節減のため既存PCのメモリー増設メンテナンスも実施している。またコンピューターウイルスから電子機器と情報を守るため、ウイルスセキュリティ強化とASP利用やクラウド化を進めている。給与計算システムは令和3年11月にクラウド化を済ませ、電子タイムカード勤怠管理は令和4年2月から導入に向け切り替え準備をしている。

介護保険で求められるLIFE (Long-term care Information system For Evidence) は、特別養護老人ホームで基礎データ入力を進めてきており、令和4年度中に介護記録の電子化への移行を行う予定である。

○地域連携・ボランティア・実習生委員

地域に根差す施設として、おがワンフェスティバルはコロナ禍で令和3年度も開催を控えている。替わって食を維持する活動を軸に、地域の方々の多世代交流の居場所づくりをしたいと考えており、外部団体とネットワークを持ち、ピロティーで食事を配布する活動を予定として開催している。次年度からだれでも食堂の継続的開催に向けて、令和3年度に準備を行っている。

ご家族面会のための入館も制限せざるを得ない状況の中、ボランティアの受け入れは、入館しないで可能なおやつ等の買い物代行に限って継続している。

同じく実習生についても入館しないでWebによる通信と研修で代用している。

○介護予防・日常生活支援総合事業

デイサービスと総合事業において令和2年度は緊急事態宣言時、サービス提供を縮小する月があったが、令和3年度は衛生対策を入念に行い、ご利用人数を戻している。一方、かつて日本財団の助成で導入した車輛は、老朽で故障のトラブルが多くなっていたが、施設併設のデイサービスは現在補助対象から外れていることから、夢ふれあい号は廃車し、中古車を導入し送迎運行の維持を行っている。

○福祉サービスの第三者評価の受審

令和3年11月15日から令和4年3月28日にかけて、委託先の一般財団法人 日本薬事法務学会と契約し、調査を行っている。感染予防策を第一に考え、調査と書類審査を実施している。調査結果は、介護サービス情報同様に東京都福祉サービス評価推進機構のホームページに掲載され公表され、この調査に係る経費は東京都経営支援補助金で賄われている。

○協力医療機関と嘱託医師

令和3年度は、協力医療機関として以下のとおり来訪により診療等を実施した。

南台病院 内科 下山克也医師	小川クリニック 内科 小川哲史医師
あきやま子どもクリニック 内科 後藤雄一医師	
小平仲町クリニック 精神科 伊藤敬雄医師	
パール歯科 歯科 輪番担当医	南台病院 産業医 下山克也医師

○法人職員人事（異動・昇格）

異動 令和4年3月1日 生活健康課相談係 主任 高橋利枝
(小川ホームから地域地域包括支援センターへ異動)

○職員入退職(常勤職員)

職 種	配置	入職者	日付	職 種	配置	退職者	日付
介護職員	特養	職員個人名は 保 護 の た め ホ ー ム ペ ー ジ では掲載して おりません。	R3.4.1 ○	介護職員	特養	職員個人名は 保 護 の た め ホ ー ム ペ ー ジ では掲載して おりません。	R3.5.31
介護職員	特養		R3.8.1	介護職員	特養		R3.5.31
ヘルパー	訪問		R3.9.1	機能訓練	通所		R3.6.30 ◇
介護職員	特養		R3.9.13	事務員	特養		R3.7.31 ◇
介護職員	特養		R3.10.1	看護職員	特養		R3.8.31
事務員	特養		R3.10.1	介護職員	特養		R3.8.31
介護職員	特養		R3.12.1	介護職員	特養		R3.8.31
介護職員	特養		R4.1.1	ケアマネジャー	計画		R3.10.30
相談員	特養		R4.3.1	ヘルパー	訪問		R3.12.31
				介護職員	特養		R4.2.28
				ケアマネジャー	計画		R4.3.31 ◇

○職員入退職(非常勤職員)

職 種	配置	入職者	日付	職 種	配置	退職者	日付
介護職員	特養	職員個人名は 保 護 の た め ホ ー ム ペ ー ジ では掲載して おりません。	R3.4.5	介護職員	特養	職員個人名は 保 護 の た め ホ ー ム ペ ー ジ では掲載して おりません。	R3.5.28
介護職員	通所		R3.4.19	医師	特養		R3.6.18
ヘルパー	訪問		R3.5.13	介護職員	特養		R3.7.26
業務員	特養		R3.6.7	介護職員	特養		R3.7.29
機能訓練	通所		R3.7.1 ◇	介護職員	特養		R3.8.17
介護職員	通所		R3.7.13	介護職員	特養		R3.9.26
ライフワーカー	特養		R3.7.23	介護職員	特養		R3.10.3
事務員	特養		R3.8.1 ◇	ライフワーカー	特養		R3.10.6
介護職員	特養		R3.8.22	介護職員	特養		R3.11.15
営繕・運転手	特養		R3.9.2	介護職員	通所		R3.11.19
介護職員	特養		R3.10.1	介護職員	特養		R3.11.30
警務員	特養		R3.10.3	介護職員	通所		R3.11.30
ライフワーカー	特養		R3.10.3	警務員	特養		R3.12.12
ライフワーカー	特養		R3.10.9	ヘルパー	訪問		R3.12.14
ライフワーカー	特養		R3.10.14	介護職員	特養		R3.12.25
介護職員	通所		R3.10.14	ライフワーカー	特養		R3.12.25
ライフワーカー	特養		R3.10.18	介護職員	通所		R3.12.28
介護職員	通所		R3.11.22	ヘルパー	訪問		R4.1.28
介護職員	特養		R3.12.2	介護職員	通所		R4.3.1
介護職員	通所		R3.12.10	介護職員	特養		R4.3.9
介護職員	通所		R4.1.6	ケアマネジャー	包括		R4.3.21
看護職員	通所		R4.1.25	介護職員	通所		R4.3.24
介護職員	特養		R4.1.31	介護職員	通所		R4.3.31
介護職員	特養		R4.3.2	介護職員	特養		R4.3.31 ○
生活サポーター	訪問		R4.3.4	事務員	特養		R4.3.31
生活サポーター	訪問		R4.3.4				

※ ○は非常勤から常勤となった職員 ◇は常勤から非常勤となった職員

○職員配置状況

令和4年3月31日現在

職 種	形態	介護老人福祉施設 (短期入所を含む)				通所介護				訪問介護			
		基 準	定 員	内兼務		基 準	定 員	内兼務		基 準	定 員	内兼務	
施設長	常勤	1	1	1	1 ケアマネ								
事務員	常勤		2	2	全区分								
	非常勤		2	2	全区分								
看護職員	常勤	3	3	1	訓練	1							
	非常勤		3			1	4	4	4 訓練				
相談員	常勤	1	1	1	1 ケアマネ	1	3	2	2 介護				
	非常勤					1	2	2	2 介護				
介護職員	常勤	24	24	4	4 ケアマネ	4	3	2	2 相談				
	非常勤		19			1	15	2	2 相談				
サービス提供 責任者	常勤									3	2	2	ヘルパー
	非常勤										1	1	ヘルパー
ヘルパー	常勤									5	2	2	サ責
	非常勤										15	1	サ責
生活 サポーター	非常勤										5		
介護支援 専門員	常勤	1	5	5	4 介護 1 相談								
	非常勤												
管理栄養士	常勤	1	1										
医師	非常勤	必 要 数	3										
精神科医師	非常勤	1	1										
歯科医師(訪 問)	非常勤	1	1										
機能訓練指 導員	常勤	1	1	1	看護								
	非常勤		1			1	5	4	4 看護				
ライフワーカー	非常勤		10				1						
業務員	非常勤		5										
警務員	非常勤		7										
運転士	非常勤		1				3	1	1LW				
計	常勤	32	38	15		6	6	4		8	4	4	
	非常勤		53	2		4	30	13		0	21	2	

職 種	形態	居宅介護支援				地域包括支援センター			
		基 準	定 員	内兼務		基 準	定 員	内兼務	
事務員	常勤		0	0			1	0	
看護職員	常勤					1	1		
	非常勤						1		
相談員	常勤					2	2		
	非常勤								
主任介護支援 専門員	常勤	1	2			1	2		
介護支援 専門員	常勤		3			4	4	1	施設長
	非常勤		2			3	3		
計	常勤	1	5	0		8	10	1	
	非常勤	0	2	0		3	4	0	

※基準は介護保険法に照らし、同時に当サービスの利用者数の現況を満たすだけの必要人員を表現している。

※計は単純に表を合計しているため、実人の計とは一致しない場合がある。

※サ責＝サービス提供責任者の略 LW＝ライフワーカーの略

○職員研修
(1) 外部研修

20220517

研修内容	研修主催者	研修者	研修日	その他
			(1日目)	(2日目以降)
第29回 予期悲嘆反応をおこした家族への意思決定支援	株式会社やさしい手 (WEB開催)	職員個人名は保護のためホームページでは掲載しておりません。	R3.5.18	
「栄養ケアマネジメント研修会」令和3年度介護報酬改定のポイント	東京都高齢者福祉施設協議会 (WEB開催)		R3.6.8	
安全対策体制加算対応「介護施設における安全対策担当養成研修」	全国老人福祉施設協会 (eラーニング)		R3.6.1～11.30	
【第1回】非営利団体と企業一緒に考えよう SDGs	東京都社会福祉協議会 (WEB開催)		R3.6.23	
高齢者福祉施設におけるサービスマナー研修会	東京都高齢者福祉施設協議会 (WEB開催)		R3.6.28	
①「多職種で見直す精神科の在り方」接遇・家族ケア・地域連携 ②「統合失調症治療の共同意思決定 (SDM)」クライシスプランの実践と展望	大日本住友製薬㈱ (WEB開催)		R3.6.29	
令和3年度 高齢者福祉施設におけるチームマネジメントを学ぶ研修	東京都社会福祉協議会 (WEB開催)		R3.7.2	R4.2.2
「右肩下がりの人の運動」シルバーリハビリ体操	東京都社会福祉協議会 (WEB開催)		R3.7.5～7.19	
令和3年度 ショートステイ WEB情報交換会	東京都社会福祉協議会 (WEB開催)		R3.7.9	
「コロナ禍から1年、ケアマネジャーの役割について改めて考えよう!!」ケアマネジメントの本質をどう捉えるか	小平市 (WEB開催)		R3.7.15	
【第2回】SNSを利用して協力者をあつめよう!	東京都社会福祉協議会 (WEB開催)		R3.7.29	
東京都介護支援専門員専門研修Ⅱ	総合健康推進財団		R3.8.12	全5日間
令和3年度 社会福祉事業従事者人権研修【Ⅰ】	東京都福祉保健局 (WEB開催)		R3.8.27	
「家族を含むチームケアの理論と実践」連携上手のコミュニケーション技術	東京都介護保険居宅事業者連絡会 (WEB開催)		R3.9.16	
令和3年度 福祉用具サービス業務従事者講習会 (褥瘡の予防と対策)	東京都福祉保健財団		R3.8.30	
認知症地域支援推進員研修【新任者研修】	社会福祉法人浴風会 認知症介護研究・研修センター		R3.9.10	
よくわかる!! LIFE活用術 (前編)	東京都社会福祉協議会 (WEB開催)		R3.9.14	R3.9.15
令和3年度東京都認知症介護実践者研修 (第15回・16回)	東京都社会福祉協議会 (WEB開催)		R3.9.22～10.22	
			R3.10.12～12.8	

全国地域包括・在宅介護支援センター研究大会（WEB 開催）	全国社会福祉協議会、全国地域包括・在宅介護支援センター協議会	職員個人名は保護のためホームページでは掲載しておりません。	R3. 10. 13	
新型コロナウイルス感染症の知識と対応	小平市在宅医療介護連携 推進協議会（WEB 開催）		R3. 10. 22	
在宅療養支援における看取りと連携	株式会社やさしい手（WEB 開催）		R3. 10. 23	
年末調整実務研修会	公益社団法人東村山法人会		R3. 11. 12	
高齢者虐待防止研修	東京都福祉保健財団		R3. 11. 2（WEB 開催）	R3. 11. 17
			R3. 11. 17	
慢性心不全について学ぼう！心臓の病気を持つ方の生活を支えるために	小平市（WEB 開催）		R3. 11. 18	
【第5回】計画に基づいた組織運営（リーダー層向け）	東京都社会福祉協議会（WEB 開催）		R3. 11. 24	
介護技術に関する研修会	東京都社会福祉協議会（WEB 開催）		R3. 11. 29～12. 13	
高齢者虐待防止研修	東京都福祉保健財団		R3. 12. 2	
権利擁護って何？相談員さんと連携を深めて明日からのケアマネジメントに役立てよう！パート②	小平市（WEB 開催）		R3. 12. 17	
			R3. 12. 17	
子ども・若者・フードサポート（地域共生社会の実現に向けて）	白梅学園大学・白梅学園短期大学子ども学研究所（WEB 開催）		R3. 12. 18	
東京都介護支援専門員実務研修	東京都福祉保健財団		R4. 1. 20	全4日間
東京都介護支援専門員専門研修Ⅱ	総合健康推進財団（WEB 開催）		R4. 1. 6～3. 24	
東京都介護支援専門員専門研修Ⅱ	総合健康推進財団（WEB 開催）		R4. 1. 6～R4. 5	
全国老人福祉施設研究会 鹿児島会議	全国老人福祉施設協会（WEB 開催）		R4. 1. 13～3. 31	
令和3年度・第2回介護保険関連相談機関との連絡会	東京都立神経病院（WEB 開催）		R4. 1. 17	
ケアマネジャーに役立つ高齢者の栄養について	小平市ケアプラン指導研修		R4. 1. 19	
「生活相談員リスクマネジメント研修会」新型コロナ終息期における介護施設の感染対策	東京都社会福祉協議会（WEB 開催）		R4. 1. 31	
気持ちよく出す「排便ケア」	小平市在宅医療介護連携推進協議会（WEB 開催）		R4. 2. 4	
ソーシャルワーク研修会 on zoom	東京都社会福祉協議会（WEB 開催）		R4. 2. 9	
「ポジショニング・シーティングの考え方と実践」重度化する利用者へのケア技術	東京都社会福祉協議会（WEB 開催）		R3. 2. 15～2. 28	
令和3年度 第3回定例会	小平ケアマネ連絡会（WEB 開催）		R3. 2. 18	
新型コロナウイルスと向き合う生活相談員	東京都社会福祉協議会（WEB 開催）		R4. 3. 14～3. 31	

全国地域包括・在宅介護支援センター研修会	全国地域包括・在宅介護支援センター協議会 (WEB 開催)	職員個人名は保護のためホームページでは掲載しておりません。	R4. 3. 14	
コロナ禍での給食施設の災害対策について	東京都多摩小平保健所		R4. 3. 16	
令和3年度 第2回主任介護支援専門員研修	小平市健康福祉部高齢者支援課 (WEB 開催)		R4. 3. 18	
管理者向け定着研修	全国老人福祉施設協会 (WEB 開催)		R4. 3. 31	

(2) 対外研修

研修内容	講師	受講者	研修日
次世代への介護の魅力発信 (WEB 開催)	野島邦義	小平市立小平第一小学校 児童2名 東村山市立富士見小学校 児童2名	R4. 3. 29

(3) 特養内部研修

研修内容	講師	受講者数	研修日
利用者急変時の対応 (緊急対応)	職員個人名は保護のためホームページでは掲載しておりません。	16名	R3. 6. 25～全4日間
クイズを通して食中毒を再認識しよう		19名	R2. 6. 12, 20
拘縮のため可動域に制限のある利用者の介助時に注意する事 (介護事故予防：1回目)		20名	R3. 8. 28, 29
利用者の身体拘束について (身体拘束廃止：1回目)		50名	R3. 9. 17, 19, 20
冬に流行する感染症・吐物処理について		17名	R3. 11. 26 R3. 12. 15
その人らしい生活を支援していく為に認知症利用者を良く知ろう (身体拘束廃止：2回目)		45名	R4. 2. 10, 11
車椅子の座り直しの介助～ポイントは前かがみ～		19名	R4. 3. 3, 7
グリーフケアについて		20名	R4. 3. 21, 23
看取り期に提供するケアの基本		20名	R4. 3. 12, 16
喀痰吸引・経管栄養研修		18名	R4. 3. 3
事例から考える高齢者の転倒予防、対策 (介護事故予防：2回目)		28名	R3. 3. 28～全3日間

(4) ヘルパー内部研修

※サービス提供責任者が講師を務め、以下の研修会を開催している。

※法人研修・外部研修は前記(1)(2)の表に記載している。

※研修未受講者に対するフォローアップ研修はOJTで個別に行っている。

年	令和3年				令和4	
月	5	5	5	8	2	3
日	14	20	28	10	7	4
研修テーマ	感染症対策について 防護服の着用方法、 感染症対策について	防護服の着用方法 感染症対策について	防護服の着用方法、 感染症対策について	コロナ化における介 護・福祉職のメンタ ルヘルス・ストレス マネージメント入門	認知症の人へのコミ ュニケーションと環 境整備のポイント	防護服の着用方法、 感染症対策について
講師： 法人内看護師 サービス提供責任者 外部講師	職員個人名は保護のため ホームページでは掲載しておりませ ん。					
職員個人名は保護のため ホームページでは掲載し ておりません。		○			○	
	○			○	○	
	○			○	○	
	○				○	
	○				○	
	○				○	
		○			○	
		○			○	
		○			○	
	○			○	○	
	○				○	
		○		○	○	
	○			○	○	
	○			○	○	
			○		○	
	○			○	○	
	○				○	
	○				○	
						○
						○
	○	○		○		○
	○	○		○		

※サポ＝生活サポーター(小平市研修を修了した総合事業向けヘルプ職員)

令和3年度 研修委員会 総評報告

《総括》

令和3年度の課題として以下の2点が挙げられていた。①特養・在宅共に、中重度の利用者の受け入れが多くなる中で職員の心身の負担が大きく体の痛みが出る事も多い。又不規則な勤務形態により体調を崩す事もある。②認知症への理解や対応する技術の不足がある。①②共にオンライン研修という形で実施することができた。

また、今後も新型コロナと共存していく社会の中で感染対策に取り組んでいかなければならないことから、新型コロナウイルス感染症の学習（新型コロナウイルスの基礎知識・手指消毒や物品消毒の方法・ガウンテクニック・衛生用品の着脱方法等）を続けていく必要がある。

感染状況の動向をみながらにはなるが、各部署でのOJT・OFF-JTを基本としつつ、オンライン研修も取り入れながら、各部署での共通課題に対し取組む事が出来る様にしていきたい。

■テーマ①コロナ禍における介護・福祉職のメンタルヘルス・ストレスマネジメント入門
令和3年8月10日（火）18:15-20:00

講師：株式会社 MAST 岩見俊哉氏

参加者：特養15人・在宅31人 計46人

日本は世界のストレスランキング第1位、さらに30代以上の女性の8割はストレスを抱えていると言われている。適度なストレスは能力の向上につながるが、過度に負荷がかかると心身に深刻な症状をきたす。

この研修ではセルフケアを中心に、コロナ禍における心の健康を維持するための方法について学んだ。

現状理解—身体面（頭痛・腰痛・食欲不振）メンタル面（気分が沈む、意欲低下）、行動面（過食、飲酒、喫煙、浪費）

対策をたてる（コーピング）—話す・書く、良い姿勢をとる、ゆっくり動いて副交感神経を有利に働かせる。

現状理解と対策を実行する際に有効な2つの考え方がある。

リフレーミング—ある枠組み（フレーム）で捉えられている枠組みを外して、違う枠組みで捉えていくこと。あと15分しかない→まだ15分ケアの時間がある。

ビリーフチェンジャー—考え方のくせ、判断基準となる考え方をコアビリーフという。失敗をすると自分を責めてしまうが、次はこうしようと前向きにとらえるとポジティブな考え方になる。

介護の仕事は常に相手の感情に変化をもたらすような対応が求められており心身の不調をきたしやすいが、今回の研修ですぐにでもはじめられるストレスケアを学ぶことができた。

■テーマ②【認知症】＝認知症・基本的な理解と、捉え方＝～BPSDの理解と原因を紐解く方程式を学ぶ

講師：(株) Professional Works 島田孝一氏

参加者：特養18人・在宅26人 計44人

認知症の原因疾患→中核症状（記憶障害・見当識障害）→BPSD（ケアする人の困りごと）
症状に至るまでの過程という基礎的な説明に始まり、BPSDは環境や接し方で変わる、中核症
状はなくせないが、BPSDの緩和は十分に可能であることに焦点を当てた講義であった。

〈事例1〉時計の理解はあるが、夜の8時にデイのお迎えがあると思って、いくらとめても
外に出てしまう。→ご家族が間違いを指摘すると怒ってしまうので、本人の思うように準備
させ送り出したところ、外が暗く夜であることに自身で気づき戻ってくるようになった。

〈事例2〉物がなくなった、盗られたと訴える。→なにがいつ頃なくなったのかを聞いて、
一緒に探す。たとえ見つからなくても、親身になって傾聴してくれた、共に行動してくれた
ことがわかれば、なにがなくなったかも忘れて穏やかになる。

事例の対応はほんのヒントに過ぎず、環境や個性を見極めその方に合った対応が求められて
いる。認知症の方がいきいきと尊厳を持って生活するための関わり方を学ぶ良い機会となっ
た。

（6）防災訓練 感染拡大防止のため密、接触を避けて実施

実施日	訓練内容	参加者
令和3年8月27日 12:00～13:00	B C P 断水発生時訓練	施設職員 10名
令和3年9月1日 14:30～15:45	夜間想定総合訓練 ①小川ホーム 夜勤時間帯地震発生・出火想定 シェイクアウト・通報・放送・消火設備取扱・ 避難誘導・ライフタワー降下・布担架・車椅子 などを用い避難・放水の訓練 危険回避のための災害講習 ②デイサービス 日中地震想定 シェイクアウト・初動訓練と利用者を介助 しながら避難誘導と点呼、図解説明家庭の 防災と防火講習	施設職員 約25名 利用者 約20名
令和3年10月12日 14:30～15:30	停電想定訓練(震災・台風災害) 災害時の優先機器材への給電訓練	施設職員 5名
令和3年10月13日 10:00～16:00	災害停電時の発電機使用給電 飲料補給 補助照明 停電時の過ごし方の訓練	施設職員 10名
令和4年3月29日 14:30～15:45	夜間想定総合訓練 ①小川ホーム 夜勤時間帯地震発生・出火想定 シェイクアウト・通報・放送・防災設備取扱・ 避難誘導・担架救護・救出方法担架救護・ 煙の特性を考慮した避難・放水 ②デイサービス 日中地震想定 シェイクアウト・初動訓練と利用者を介助 しながら避難誘導と点呼	施設職員 約25名 利用者 約20名

指定介護老人福祉施設 小川ホーム

事業報告

運営概況

介護サービスは、利用者の生活を支える上では欠かせないものであり、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う緊急事態宣言下であっても、感染防止対策等の徹底を前提としたサービス提供が求められている。

今年度は、多くの介護事業所では「クラスター発生」や「感染拡大を恐れた利用者減」などの影響が出ている中、当施設では「新しい生活様式」を実践し、幸いにも感染者を出すこともなく利用者を感染症から守り、事業運営できたことは評価できる一方、利用者の社会活動支援においては、多くの課題が残った。その一つが面会や外出などである。

これまでの面会方法は、オンラインや飛散防止シートを挟んだ窓越での面会が中心であったが、今年度は新たに個室でアクリル板越しの面会（対面面会）を開始することができた。短時間であるものの、利用者のご家族が手と手を握り合い、久しぶりの時間を過ごすことができたのは、我々にとっても感無量の思いだった。しかし対面面会は様々な条件や社会の感染状況を考慮しなければならず、短期間で停止することとなってしまった。また外出支援については、病院受診以外で施設から出ることは殆どなく、花見や施設周辺への散歩の他、施設の屋上での外気浴や雪遊びくらいしかできなかった。施設を守ることを考えれば、人との交流を制限するという決断になるが、職員だけでは利用者の生活を支えることには限界がある。利用者やご家族の気持ちに対し、喜んでもらおうという気持ちは変わらない。そのため次年度は、利用者の笑顔を引き出せるよう“思い”や“気持ち”に寄り添い、そして家族も含め安心した施設を目指していく。

この他、目標稼働率 96%については、今期は入所定員を 77 床に変更したこともあり、96.87%と目標を達成することができた。また安定した財務基盤と質の高いサービス提供の確保については、感染症予防指針及びBCP計画を改定した他、書類等の事務的作業時間の軽減のためのパソコン・タブレットの導入については、業者と商議を重ねており、来年度には導入できる見込みである。さらに介護職員の喀痰吸引等業務の指定研修は、現在 16 名の職員が修了しており、重度化に対応できる体制が整いつつある。

社会福祉法人が行う公益事業においては、地域の方々に施設の一部の場所を提供し活動を支援した他、委員自らもボランティア活動に参加するなど、地域包括支援センターにも助力を得ながら、実施することができた。来年度は、小川ホーム独自の公益活動を実践できるよう委員会を中心に進めていきたい。

最後にコロナ渦の中、多くの方々から頂戴した温かいお心遣いに感謝申し上げます。次年度も引き続き、強い使命感を持って利用者の生活を支えられるよう取り組んで参ります。

以上、今年度の事業報告とする。

1. 入所者の状況

(1) 月別入所実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
在籍数	74	77	76	75	75	77	76
延べ人数	2,186	2,269	2,234	2,279	2,225	2,269	2,195
1日当り	72.9	73.2	74.5	73.5	71.8	75.6	70.8
	11月	12月	1月	2月	3月	合計	※R2年度
在籍数	75	75	77	77	77	911	888
延べ人数	2,195	2,149	2,170	2,089	2,194	26,454	25,631
1日当り	73.2	69.3	70.0	74.6	70.8	72.4	70.2

※ 令和3年5月1日より、入所定員が73床から77床に定員変更となる。

(2) 介護保険者（市・区）別入所者

	男性	女性	計
小平市	12	57	69
他市区	2	6	8
計	14	63	77

(3) 入所者の要介護度等の状況

a. 要介護度の内訳

	現入所者		※R2年度	
	男性	女性	男性	女性
要介護1	0	0	1	1
要介護2	0	3	0	3
要介護3	6	21	4	25
要介護4	4	23	4	20
要介護5	4	16	5	12
計	14	63	14	63
介護度平均	3.85	3.82	3.85	3.68
総員介護度平均	3.83		3.72	
介護度4・5の占める割合	61%		56%	

b. 障害高齢者の日常生活自立度

障害自立度	状況	男性	女性	計
J1・J2	生活自立	0	0	0
A1	準寝たきり	2	9	11
A2		1	8	9
B1	寝たきり	5	19	24
B2		4	17	21
C1		1	3	4
C2		1	7	8
計		14	63	77

c. 認知症高齢者の日常生活自立度

認知症自立度	男性	女性	計
自立	0	0	0
I	1	2	3
Ⅱa	1	0	1
Ⅱb	4	9	13
Ⅲa	1	20	21
Ⅲb	6	22	28
Ⅳ	1	4	5
M	0	6	6
計	14	63	77
Ⅲa以上の占める割合		77.9%	

d. 年齢構成

年齢	男性	女性	計
65歳未満	1	0	1
65～69	2	1	3
70～74	3	1	4
75～79	4	1	5
80～84	2	7	9
85～89	2	23	25
90～94	0	20	20
95以上	0	10	10
計	14	63	77
平均年齢	76.35	78.07	77.76

(4) 年度内の入退所者状況 (R4.3.31 現在)

a. 要介護度の内訳

	入所		計	退所		計
	男性	女性		男性	女性	
要介護3	2	9	11	0	3	3
要介護4	1	8	9	1	9	10
要介護5	0	2	2	3	6	9
その他	0	1	1	0	0	0
計	3	20	23	4	18	22

※ 入退所数の誤差1名分は退所が決定していたが、手続き等の関係で差異が生じた。

b. 入所前の状況

入所前の状況	男性	女性	計
自宅から入所	3	26	29
老人保健施設から入所	6	26	32
病院及び療養型から入所	3	7	10
その他入所（有料、グループホーム等）	2	4	6
計	14	63	77

c. 退所理由

理 由	男性	女性	計
家族引取り	0	0	0
他施入所	0	0	0
長期入院・療養型	1	3	4
施設内死亡	看取	7	7
	検死	2	2
入院後死亡	3	6	9
計	4	18	22

2. 処遇の状況

【日常生活援助】

(1) 排泄

プライバシーの保全、尊厳を損なわない配慮をしながら援助

項目	日 中			夜 間		
	男	女	計	男	女	計
自立	4	12	16	2	8	10
トイレ誘導	5	37	42	0	1	1
ポータブル介助	0	0	0	1	15	16
尿・便器介助	0	0	0	1	0	1
オムツ	5	13	18	10	38	48
その他	0	1	1	0	1	1
計	14	63	77	14	63	77

※ 排泄物の量や質について職員の評価基準を統一させるため、スケール表を導入し、その評価から利用者一人ひとりの支援を検討した。

※ 自立排泄を目標に身体的側面の他、心理的・社会的・習慣的側面など、その人の“生活”全体を踏まえ、個々の排泄状況を分析し、ケースミーティングに取り上げ、自立へ移行するように職員の意思統一を図り努めている。

(2) 更衣 残存機能と清潔保持に努めている。

項目	男	女	計
自立	5	19	24
一部介助	4	32	36
全介助	5	12	17
計	14	63	77

一部介助 衣類を準備し障害の程度に応じで介助する方

全介助 疾患により自ら行えない方

(3) 洗面

項目	男	女	計
自立	6	37	43
一部介助	5	14	19
全介助	3	12	15
計	14	63	77

一部介助 洗面所に誘導し、タオルで拭ける方（声掛けを含む）

全介助 タオルにて介助

(4) 口腔ケア

口腔清拭保持と状態観察

項目		男	女	計
自立		8	21	29
要介助	声かけ	2	5	7
	うがい	0	1	1
	義歯	1	20	21
	歯磨	2	7	9
	コットン	1	9	10
計		14	63	77

声かけ 声かけして歯ブラシに歯磨き粉をつけて促す

洗 口 歯のない方はシンリング（すすぎ、うがい）を実施

義 歯 職員が歯ブラシで洗浄、うがい介助、夜間はポリデント洗浄

歯 磨 歯のある方で一部介助が必要な方

コットン コットンにて洗浄

(5) 入浴

清潔保持とともに全身の状態観察を行い、心理的に満たされた入浴を楽しんでいた
 だけよう実施している。

項 目		男	女	計
自 立		4	14	18
介 助	一部介助	5	32	37
	全介助	3	9	12
	清拭	0	0	0
	機械浴（ストレッチャー）	2	8	10
計		14	63	77

一部介助 洗う意欲はあるが不十分な方

全介助 疾患により不十分な方

※ 清潔保持と心身のリラックスのため、ADLに合わせた入浴を実施し、個々の好みを尊重し、時間設定した対応をしてきた。

※ 利用者の心身の状況に合わせ、入浴の順番についても配慮し、その人の生活がより快適なものになるよう、生活支援係全体で利用者の生活のコーディネートに努めてきた。

(6) 食事

温かい雰囲気の中でゆっくり食べられるよう配慮し提供している。

項 目	男	女	計
自立	10	38	48
一部介助	1	12	13
全介助	2	7	9
経管栄養等	1	6	7
計	14	63	77

一部介助 スプーンや手づかみで口に運ぶが殆どこぼしてしまう方。

声かけして、口元にスプーンを持っていき、口をあけてもらう方。

全介助 食べる動作を忘れるなど、動作ができない方。

※ コロナ禍の中、食事は利用者にとっては日常生活の楽しみのひとつとなっている。その人に合った食事や好む食事を目標に介護・看護職員他、管理栄養士が毎日ミールラウンドを行い、食形態や量など利用者の変化に対応するよう努めている。

※ また「セレクトの日」で、好みのメニューを選ぶなどして、行事などで変化のある食事を提供している。

※ なお、「行事食メニュー」「食糧構成基準量と摂取量」は別記を参照。

(8) 移動・誘導

残存機能を活用し、個々に合った介助を行っている。

項 目		男	女	計
自立	歩行	2	5	7
	シルバーカー歩行器	0	7	7
	車椅子	6	15	21
要介助	誘導	0	1	1
	誘導（杖）	0	0	0
	車椅子（一部介助）	0	14	14
	車椅子（全介助）	4	17	21
	歩行介助	2	4	6
計		14	63	77

自立歩行 声かけのみで目的地へ行ける

誘 導 声かけし、職員と一緒に目的地まで行ける

車椅子（一部介助） 移動のみの介助で、声かけで目的地まで行ける

車椅子（全介助） 移動し、職員と一緒に目的地まで介助

【行事活動】

(1) 実施行事

実施月日	行事名	内容	実施場所
5月5～7日	菖蒲湯	入浴の際に浴槽内で菖蒲の香を楽しむ。菖蒲独特の爽やかな香りが邪気を払い、無病息災の祈りを込める。	ホーム内
5月9日	母の日のお祝い	女性利用者様にカーネーションを持って頂き記念撮影を行う。	ホーム内
6月13日	父の日のお祝い	男性利用者様にアルコール飲料(ノンアルコールも含む)をおやつ時間に提供し楽しまれているところを写真撮影する。	ホーム内
6月27日	演芸会	懐かしの歌を歌い打楽器を叩いたり振ったりすることでストレス発散と筋力維持につなげ楽しい時間を過ごす。	ホーム内
7月1～7日	七夕	短冊に願いを込めてフロアの笹に飾る。七夕に因んだ食事を提供し、季節感も味わう。	ホーム内
7月13～16日	盆供養	フロアに祭壇を設置して故人が生前を過ごした施設に迎え、冥福を祈ると共に霊魂を供養する。	ホーム内
9月19日	敬老会・秋祭り	紅白幕でお祝いムードを盛り上げ長寿のお祝いを行う。昼食にお祝い膳を楽しみ、午後には秋祭りとして景品付きのゲームやお菓子・ジュース・ノンアルコールビールを提供して楽しい時間を過ごしてもらう。	ホーム内
10月17日	お楽しみ会	綿あめを作る工程を楽しみながら美味しく召し上がって頂く。	ホーム内
12月19日	年忘れ会	クリスマス飾りを施し、サンタクロースに仮装した職員による唱やプレゼントなどの催し物で楽しんで頂く。昼食には華やかな食事で一年の労をねぎらう。	ホーム内
12月20～22日	ゆず湯	旬を迎える香り高い柚子を浴槽に入れ、スッキリした香りが心を落ち着かせ、日々の疲れを癒す。	ホーム内
1月1日	新年祝賀会	フロアを装飾し、おせち料理やお屠蘇で新年の幕開けを祝い正月を楽しむ。	ホーム内
2月3日	節分	鬼に扮した職員に利用者様が豆まきを行い厄を払う。	ホーム内
3月3日	ひな祭り	雛人形を飾り、おやつに和菓子を頂き桃の節句を祝う	ホーム内

(2) レク・クラブ活動（実動）

- ◆ 集団…料理クラブ、華道クラブ、歌集を用いての歌、体操、手遊び、パタカラ体操、ボール投げ、ボール送り、テニス、ホワイトボードを用いてのクイズ、なぞなぞ、漢字問題、ことわざ、都道府県クイズ、しりとり、あるなしクイズ、紙芝居などなど
- ◆ 個人…塗り絵、折り紙、スクラッチアート、編み物、パズル、計算ドリル、刺繍糸アート

(3) 活動支援

◆ 面会等

新型コロナウイルス感染症のため、オンライン面会及び窓越し面会の他、電話や広報、写真などで様子をお伝えするなど、可能な限り利用者と家族が繋がる機会をつくれるよう努力をした。

◆ 相談支援等

一同を介する利用者懇談会の形式から、個別に実施する形式に変更。月間予定表の配布と利用者の意見や要望、連絡の場だけではなく、利用者の不安や心配事を聴くことに重きを置いて取り組んだ。来年度は、従来の利用者懇談会の形式に戻し、安全に活動していく。

◆ 理容・美容

毎月理容1回、美容2回地域の理美容師により実施している。理美容師の方々にも標準予防策の実施の他、フェイスシールドと手袋を着用してもらい、接触を限りなく避ける形で実施した。

◆ 嗜好品購入

ご家族様等による嗜好品の持参の他、生活協同組合「コープみらい」のカタログから、お菓子などの嗜好品を利用者が選び、配達を受けている。また買物ボランティアによる近隣施設への買い出しなども行った。

【健康状況】

(1) 定期診察状況

項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
内科	73 (122)	72 (111)	74 (131)	20 (109)	72 (126)	78 (133)	74 (125)
精神科	40 (28)	40 (28)	41 (30)	40 (32)	38 (30)	37 (28)	35 (28)
歯科	67	69	66	61	69	51	47
項目	11月	12月	1月	2月	3月	合計	総数
内科	64 (113)	68 (120)	70 (118)	74 (108)	70 (137)	809 (1,453)	2,262
精神科	36 (28)	32 (24)	33 (25)	33 (23)	33 (23)	438 (327)	765
歯科	84	62	48	51	49	724	
						計 3,751	

【診察のみ（診察処方）とで区別してカウント】

(2) 健康診断状況と新型コロナワクチン接種・インフルエンザ予防接種

※ 定期健康診断は、年1回実施している。

※ インフルエンザ予防接種は、利用者全員に希望を伺う（入院中利用者除く）。

● 新型コロナワクチン接種者

(1回目) : 73人、(2回目) : 73人、(3回目) : 72人

● 季節型インフルエンザ接種者 : 69名

(3) 外来受診状況

診療科	内科		脳神経外科		整形外科		皮膚科		眼科	
性別	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
件数	24	108	0	7	7	28	8	6	0	2
診療科	泌尿器科		精神科		救急外来		その他			
性別	男	女	男	女	男	女	男	女		
件数	0	4	4	0	1	12	0	15		

(4) 受診先医療機関

医療機関名	件数	医療機関名	件数	医療機関名	件数	医療機関名	件数
南台病院	149	一橋病院	19	東大和病院	6	公立昭和病院	10
多摩北部医療センター	1	国立精神神経センター	4	新山手病院	4	久米川病院	1
緑風荘病院	11	あかしあ脳外科	7	その他	15	計 227 件	

(5) 入院期間

日数	0～7	8～14	15～30	31～90	90～	合計
男	1	1	6	7	0	15
女	8	3	9	13	0	33
計	9	4	15	20	0	48

(6) 入院患者病名

病名	人数	病名	人数
肺炎（気管支炎含む）	20	低ナトリウム血症	1
腎盂腎炎	3	水腎症	1
骨折	1	胆嚢炎	1
脳梗塞	2	総胆管結石	1
尿路感染症	2	胆管がん	1
心不全	7	その他	9

【延べ人数でカウント】

3. 実習生・ボランティアの受け入れと地域福祉

(1) 実習生の受け入れ

形式	学校名	人数	延べ人数	研修（実習）目的
オンライン	東京医療保健大学	19	38	看護実習
	武蔵野美術大学	10	70	教員実習に伴う介護体験
	帝京平成大学	1	10	教員実習に伴う介護体験
現場	東京医療秘書福祉専門学校	2	48	介護実習

(2) ボランティアの受け入れ状況

グループ名	内容
個人	買い物、縫い物、理容・美容（有料）

買い物や縫い物は、利用者と直接接しない方法で実施、理容・美容については、上記（2）活動支援の「理容・美容」を参照。

(3) 地域福祉

学校名	内容
なし	-

今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により中止。次年度も感染症にて不透明なところだが、地域連携・実習生・ボランティア委員会を中心に、福祉サービスを必要とする人たちが地域社会を構成する一員として、社会、経済、文化に限らずあらゆる分野の活動に参加する機会を得ることができるよう努めていきたい。

4. 各係

(1) 介護事故予防委員会

事故予防策の周知徹底と事故予測の向上を図る為、ケアカンファレンスや研修を通して行ってきた。結果的に昨年より33件減少の91件の発生にとどめる事が出来たが、骨折や誤薬などの重大事故が7件となってしまう更なる予防策の周知と事故予測の向上を図る必要がある。次年度は引き続き職員教育を行っていき、利用者をより深く理解していくことでアセスメント能力や事故予防能力を高めていけるように努めていきたい。また、多職種との連携を図りより多くの視点で利用者の安全を守っていきようにしていきたい。

(2) 身体拘束廃止委員会

人員不足や利用者の重度化により精神的余裕がなくなると、スピーチロック等の状態が生まれやすく、その都度不適切ケアが改善できるよう働きかけを行った。今後も余裕のない職場環境の改善にも目を向けていきたい。『利用者の身体拘束について』

では、身体拘束の基礎を改めて周知できる研修として、『その人らしい生活を支援していく為に認知症利用者を良く知ろう』では日頃目にしがちな事例などを通して、人権の保持、介護方法の工夫、言葉による拘束を直接体験したことで認知症利用者の理解を深め、職員全体で基本的ケアの見直しの機会が持てた。

次年度は、職員が声を掛け合い、積極的に話し合える環境を整えていきたい。

(3) 感染症予防委員会

感染症対策にあたっては、保健所等の社会状況を注視しながら、協力医療機関や協力医からも情報を収集し予防に努め、利用者の生活への影響も考慮し、様々な感染対策を講じてきた。また研修にあたっては、新型コロナウイルス感染（COVID-19）をメインとし、併せて食中毒とノロウイルス、インフルエンザの予防について、各感染症の特性と標準予防策の重要性を中心に研修を実施。職員一人ひとりが感染症予防に対し、高い意志を持って職員全体で協力して取り組むことができた。

今年度、幸いにも施設内感染を防げたのは現場職員の日々の努力の成果と考える。現在も新型コロナウイルス（COVID-19）が世界的に流行しているため、利用者や職員の命を守ることを第一に考え、引き続き施設でできることから取り組んでいきたい。

(4) 看取り介護委員会

今期は7名の方を施設で看取ることが出来た。コロナ禍の中ではあったが、看取りケアについては、感染予防策を徹底して頂き、家族との面会時間を極端に制限することなく、一緒に過ごす時間を大切に支援させて頂いた。

今後も施設で最期を迎える機会が増えてくることが予想される。次年度は、更なる体制の整備を行い最善の看護と介護が行えるよう努めていきたい。

(5) 褥瘡予防委員会

介護用品の継続的な補整強化及び除圧への取り組み、更には新たな処置方法を確立し、褥瘡予防に努めてきた。しかし職員の1人ひとりの技術力の差を埋めることができず、繰り返し皮膚トラブルを発生させてしまうケースもあり、個人単位での褥瘡予防の支援が徹底することができなかった。

褥瘡を予防するには、利用者の生活を総合的にマネジメントする必要がある。そのためにも、まずは委員会が中心となり、多職種と連携し適切なサービスを提供していきたい。

(6) 生活支援係

『多職種と連携し利用者の生活の質と健康を確保する為、常に利用者にとって最適な支援なのか模索し、支障があれば早期に解決する。』と目標にあげていたが、業務的な事柄に時間を割いてしまうことが多くみられた。係の話し合いでも上半期では物品や書類整備などの議題が多く、利用者に対するケアの課題やサービスの質に関しては現場での場当たりの対応となってしまうことがほとんどであった。そのため多職種との連携や共通理解がされず、業務に当たる職員に混乱を招いてしまうことが多発し生活課の会議においても課題を取り上げて係とともに対応を行った。下半期からは

利用者の個別対応を重視した話し合いを中心に行い、ケアカンファレンス等を通じて統一したケアが行えるようにしている。

食事・排泄・入浴という三大介護をひとつの係で対応をしていたため業務的なことばかりが優先されてしまい個別の対応を深く掘り下げた話し合いを行う事が時間的にも困難だったと思われる。次年度は生活支援係をそれぞれ『食事係』『排泄係』『入浴係』と戻し利用者により良いケアを提供できる体制をつくり活動していく。

(7) ケアプラン係

利用者の生活の質を良くするための取り組みとして、コロナ過で余暇時間の充実が出来ない中、生活歴などから本人の趣味を見つけ、ご家族と連携し個人レクや集団レク等が活性化できるよう他の係と取り組みを行った。また、活動が中止していたクラブ系も一部再開することで利用者の満足度をあげることもできた。

しかし、支援内容の理解度が薄く、身体状況の変化に対しての行動や特に新規入所者へのアプローチが後手に回ってしまった印象があり、統一したサービス提供の管理の面では課題が残る。

ケアマネのみでなく、主任及び担当職員が利用者の支援の方向性の理解を深め、生活の質の維持・向上を目指せる状態を考察していく必要がある。

コロナ過の中、施設で看取る利用者が増えていくと考えられる。看取り期の準備にすぐ取りかかれるよう、次年度は看取り委員会と協同して、その人らしい最期をどのように迎えるかご家族との情報収集を行っていきけるシステムを構築していくこととする。

LIFE の導入に向けて課題を抽出し、導入後は施設全体で統一したサービス提供を目指せるように取り組んでいきたい。

(8) レク・クラブ係

家族との時間や外出の機会が確保できない中、今年度は施設内で行えるレクリエーション活動に力を入れ取り組んできた。レクリエーションを通じて、人と人とのコミュニケーションを推進する場として、さらには楽しさや喜びなどから心身の活性を高め、活動意欲を引き出すことに注力してきた。3階フロアでは、業務に位置付けたことによりレクリエーションが定着し職員の意識も変わっていた。2階フロアにおいては、職員頼みになってしまい体制を整えることができなかった。次年度は2階フロアにおいても業務として位置付ける事で行える体制を整えたい。レクリエーションの内容については、各職員が個々の考えで行っているため、内容量や支援効果にも差が生じてしまった。そのため次年度は、活動に使用する物品を充実させていく他、利用者一人ひとりレクアセスメントを行い、何が出来るのかを知りレクの個別化、レク手順のマニュアル化とレクメニューの充実、更にはケアプランと連動し、生活の質の向上に努めていく。

クラブ活動については、新型コロナウイルス感染症の影響により外部ボランティアの協力が得られず、書道クラブは活動休止したが、華道クラブ・料理クラブは職員が主となり開催することができた。料理クラブとしては、具材を混ぜたり、手を動かしたり、見て楽しみ、匂いを感じ、焼いた音を聞き、食べて味わう事で五感を刺激する

活動ができた。華道クラブとしては、剣山からオアシスに変更したことで力の無い利用者でも簡単に挿す事ができ好評だった。また四季折々の花をフロアに飾る事で利用者様に四季を感じて頂けた。

(9) ショートステイ係

※ ショートステイ係は、短期入所生活介護事業報告欄を参照。

5. 栄養、給食関係

給与栄養基準量と摂取量

給与栄養基準量	給与栄養量	
	基準量	摂取量
エネルギー (kcal)	1500	1508
たんぱく質 (g)	58.0	59.0
脂質 (g)	35.0	37.4
カルシウム (mg)	675	715
鉄 (mg)	6.3	7.4
ビタミンA (μg)	746	723
ビタミンB1 (mg)	1.0	1.11
ビタミンB2 (mg)	1.2	0.88
ナイアシン (mg)	11	13.3
ビタミンC (mg)	100	104
食塩相当量 (g)	7.2 以下	7.1
食物繊維 (g)	17.6	14.8
炭水化物エネルギー比 (%)	63.5	62.1
脂肪エネルギー比 (%)	21	22.3
蛋白質エネルギー比 (%)	15.5	15.6

給与栄養基準量	基準栄養量に対する 給与摂取量の比率
エネルギー 1500 kcal	101%
タンパク質 58 g	102%
脂質 35 g	107%

(令和4年3月分)

行事食メニュー (令和3年度)

月	日	行 事	献 立
4	4	郷土料理の日	～沖縄県～ ジューシー、味噌汁、フーチャンプルー、大根の含め煮、ヨーグルト
			桜ご飯、清汁、さばの竜田揚げ、かぼちの甘辛煮、浅漬け
	5	桜祭り	<間食>ねりきり (桜)
	6	握り寿司の日	握り寿司、干瓢巻き、清汁、豆腐かにあん、小松菜の磯和え
	8	お楽しみ献立	ご飯、清汁、刺し身、じゃが芋のそぼろあん、インゲンの胡麻和え

5	5	端午の節句	散らし寿司、清汁、炊き合せ、抹茶プリン ＜間食＞生菓子（ねりきり）
	9	お楽しみ献立	ご飯、清汁、すき焼き、温泉玉子、酢の物
	10	母の日	鯛めし、清汁、茶巾盛り合わせ、しめじと青菜の和え物 ＜間食＞キャラメルケーキ
	11	赤飯の日	赤飯、清汁、鮭の照り焼き、がんもの含め煮、酢の物
6	2	赤飯の日	赤飯、味噌汁、鮭の香味焼き、厚揚げと野菜のくず煮、浅漬け
	9	お楽しみ献立	エビピラフ、ポタージュ、しゅうまい、南瓜サラダ
	17	郷土料理	～福岡県～ かしわ飯、清汁、かれいの明太マヨ焼き、がめ煮、漬物
	21	父の日	鮭の散らし寿司、清汁、夏野菜の炊き合わせ、お浸し （間）どら焼き
7	5	お楽しみ献立	祭り寿司、冷しそうめん汁、大根のかにあんかけ、 柚子水まんじゅう
	7	七夕	三色そうめん、天ぷら、豆腐の蟹あんかけ、星ゼリー
	14	赤飯の日	赤飯、豚汁、鮭の香り蒸し、里芋の煮付け、 海老と三つ葉のみぞれ和え
8	6	郷土料理の日	～山形県～ ご飯、芋煮汁、枝豆入りハンバーグの甘辛煮、 冷や汁（煮浸し）、だし（和え物）
	9	お楽しみ献立	枝豆と茗荷の生姜ご飯、清汁、フライ盛り合わせ、 冬瓜の冷やし葛あん、水まんじゅう
	15	終戦の日	さつま芋ご飯、すいとん、魚の煮付け、角天の炊き合わせ、 しその実和え
	18	赤飯の日	赤飯、味噌汁、鮭の香り蒸し、炊き合わせ、胡瓜の酢の物
9	3	お楽しみ献立日	デミグラスオムライス、コンソメスープ、豆サラダ、 フルーチェ
	20	敬老の日	＜松花堂弁当＞赤飯、お吸い物（かまぼこ、三つ葉）前菜（青 菜のきのこ和え、菊花と長芋の酢の物、蟹の重ね蒸し、厚焼き 玉子、甘味（寿ねりきり）炊き合わせ（六角里芋、亀さつま 芋、鶴人参、南瓜、魚河岸揚げ、絹さや）、焼き物（鶏肉の野 菜巻き）天ぷら抹茶塩添え（舞茸、ピーマン、海老）
	25	郷土料理の日	～群馬県～ 釜めし、しこね汁、みそ田楽、白和え
10	1	赤飯の日	赤飯、けんちん汁、鮭の幽庵焼き、炊き合わせ、酢の物
	6	郷土料理の日	～大分県～ ひじきご飯、味噌汁、とり天、がめ煮、酒まんじゅう
	18	お楽しみ献立	ご飯、ポタージュ、チキンカツレツ、切り干し大根煮、 白菜の風味和え
11	12	握り寿司の日	握り寿司、干瓢巻き、清汁、豆腐の海老あん、ピーナッツ和え
	14	お楽しみ献立	ねぎとろ丼、清汁、厚揚げの五目煮、 ほうれん草と干し菊のお浸し
	25	赤飯の日	赤飯、豚汁、赤魚の煮付け、豆腐の肉野菜あん、 もやしの辛子醤油和え

12	2	郷土料理の日	～東京都～深川めし、清汁、揚げ出豆腐、小松菜の磯和え
	15	お楽しみ献立	ターメリックライス、コンソメスープ、チキングラタン、パンプキンサラダ、デザート
	16	赤飯の日	赤飯、清汁、鯖の西京焼き、じゃが芋煮、風味和え
	20	年忘れ会	クリスマス弁当：太巻き、いなり寿司、クリームコロッケ、海老フライ、さつま芋のツリーサラダ、浅漬け、一口ロールケーキ、コーンかき玉スープ
	24	クリスマス	洋風ピラフ、コンソメスープ、シーフードのクリーム煮、鴨と卵のサラダ、ホワイトチョコムース
	31	年越しそば	ご飯、一口年越しそば、うなぎの蒲焼き、炊き合わせ、りんごのコンポート
1	1	正月	赤飯、お吸い物、おせち料理
			一の重：伊達巻、紅白蒲鉾、黒豆、数の子、栗きんとん、松竹梅羊羹
			二の重：甘鯛の西京焼き、鶏の八幡巻き、紅白なます、海老の艶煮、のどくろの大根巻き、昆布巻
			三の重：煮しめ（松大根、ねじり梅人参、野菜しんじょう、椎茸、穂先たけのこ、こんにゃく、六角里芋、ふき、絹さや）
	2	正月	ご飯、お雑煮風汁、鯖の西京焼、一口がんもの炊き合わせ、千枚漬け
	3	正月	ねぎとろ丼、きのこ汁、揚げだし豆腐、オクラの梅肉和え
	5	郷土料理の日	～北海道～
			ご飯、かしわぬき、鮭のチャンチャン焼き、かぼちゃしるこ、昆布和え
	6	赤飯の日	赤飯、清汁、白身魚のかぶら蒸し、茄子のそぼろあん、菜の花のお浸し
2	7	七草粥	七草粥、厚焼き玉子、きんぴら蓮根
	12	お楽しみ献立	オムライス、クリームスープ、ポテトサラダ、果物
	3	節分	（昼）恵方巻、豚汁、豆腐の五目あん、菜の花の辛子和え
	3	節分	（夕）福ご飯、味噌汁、節分焼き、さつま芋のオレンジ煮、胡瓜とわかめの酢の物
	10	郷土料理の日	～静岡～
			桜海老のかき揚げ丼、味噌汁、枝豆のあんかけ豆腐、黒糖まんじゅう
3	14	バレンタイン	ご飯、かきたま汁、きのこソースハンバーグ、里芋煮、チョコプリン
	16	握り寿司の日	握り寿司、かんぴょう巻き、清汁、かに豆腐、青菜のピーナッツ和え
	3	桃の節句	江戸散らし、清汁、炊き合せ、菜の花の辛子和え
			<間食> ひな饅頭
	8	赤飯の日	赤飯、きのこ汁、赤魚の煮付け、ひき肉と春雨の炒め物、胡麻和え
	17	お楽しみ献立	鯛めし、清汁、炊き合わせ、浅漬け

短期入所生活介護 事業報告

運営概況

コロナが発生してから2年。ワクチン接種や治療薬が収束の希望として期待されているが、現在においても収束には至っておらず、感染症に付随する国や自治体からの要請に事業運営との両立に苦慮した。特に小川ホームのショートステイは特別養護老人ホームに併設しているため、エリア分離は限界があり、利用者同士の接触を避けるのは困難である。

サービス利用においては、利用者の介護状況や生活環境だけでなく、同居者や協力者の体調や、その周辺状況を含め事前聴取し、利用2週間前からの体調チェックと当日の抗原検査を実施するなど、多くの手続きを得て利用開始となるため、安全が確保できずに断るケースも発生した。

また今期はショートステイ定員を減床したこともあり、昨年度より稼働率は上昇したが、利用者の在宅生活を支える上では、必要不可欠なサービスであることは変わらない。次年度は利用者ニーズを捉え、在宅生活が継続できるよう、質の高いサービスを提供できる体制も整備していきたい。

1. 令和3年度月別利用実績

月 項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
稼働日数	27	28	30	31	31	30	30
延べ人数	53	70	88	108	146	92	128
1日当たり	1.8	2.3	2.9	3.5	4.7	3.1	4.1
稼働率	22.1	56.5	73.3	87.1	117.7	76.7	103.2
月 項目	11月	12月	1月	2月	3月	合計	※R2年度
稼働日数	30	31	31	28	28	352日	352
延べ人数	107	146	195	143	118	1,394人	1,238人
1日当たり	3.6	4.7	6.3	5.1	4.1	3.9人	3.5人
稼働率	89.2	117.7	157.3	127.7	95.2	88.2%	42.4%

小川ホーム デイサービスセンター 事業報告

運営概況

事業目標に対して：

- 法人理念である「ご利用者の心を大切にし、健全で安らかな生活を支えるという考え方」行動をとれていたと思われる。
- 中重度者利用率は、平成30年度31.7%、令和1年度27.0%、令和2年度22.8%、令和3年度23.8%の推移となっている。
傾向としては、今年度も身体的な重度者の申し込みは減少し、認知症を伴う方の申し込みが増加であった。
- 通所介護事業は、目標の稼働率90%に対して、73.1%。
コロナ禍ではあるが、申し込み状況は、小川ホーム計画センターを中心として堅調な状況。ただし、ショートステイや入院などのケースが多く、登録人数と実利用人数との差が大きく見られた。長期欠席者の状況を担当の介護支援専門員と連絡をこまめにとり、状況に合わせて、ご利用希望者の受け入れ調整を早めていくことがポイントと考える。
- 市独自基準通所介護事業は、目標の稼働率50%に対して、36.6%。
緩和型デイサービスについては、現状、1名体制で行っているので、送迎範囲に課題が残る。収支の問題があるが、送迎とマシーントレーニング・体操ができる職員の導入など検討することも来年度の検討課題となっている。
- 個別、グループ活動の面は、職員の創意工夫もあり、楽しみや活力・集う喜びを得られ、心穏やかに過ごせるような援助をできている。
- 研修については、オンラインでの研修については、時間調整がつきやすく、参加率向上につながる期待あり。また、前年同様、研修マニュアルが不完全なため、改めて研修計画の練り直しが必要である。
- 通所介護計画書作成、フェイスシート更新業務については、3人の常勤介護職員(生活相談員)間で、介護業務の関わり比率を検討の上、分担制を導入した。そのことで、スムーズな介護支援ができるようになると思われる。

1. 月別実績

	内容／月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
参加数	要支援(緩デイ)	93	98	100	116	115	114	112	119	108	115	109	126	1,325
	要支援(通デイ)	61	54	63	64	65	74	69	66	65	60	58	77	776
	介護	577	552	552	592	606	662	614	591	535	539	511	541	6,872
	計	731	704	715	772	786	850	795	776	708	714	678	744	8,973
	(3年度計)	486	453	508	629	620	658	675	669	598	613	642	719	7,270
新規	予防	4	4	3	3	1	2	1	1	0	3	0	2	24
	介護	4	4	3	2	0	0	3	1	2	1	0	1	21
	計	8	8	6	5	1	2	4	2	2	4	0	3	45
廃止	予防	1	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	3
	介護	3	4	1	1	3	2	2	1	2	0	3	2	24
	計	4	4	2	1	3	2	3	1	2	0	3	2	27
予防	運動機能向上	15	19	16	8	0	0	0	0	0	0	0	0	58
	口腔機能向上	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	栄養改善	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	入浴(一般)	6	9	5	9	7	8	9	9	7	8	8	8	93
介護	機能訓練	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	口腔機能向上	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	栄養改善	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	入浴(一般)	210	194	200	213	212	209	225	235	217	211	195	194	2,515
	入浴(機械)	131	141	144	157	147	150	128	108	87	93	89	101	1,476

2. 要介護度・年齢別利用者数

年齢	性	支援1	支援2	介護1	介護2	介護3	介護4	介護5	計	構成比%
～64	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
	女	0	0	0	0	0	0	0	0	
	計	0	0	0	0	0	0	0	0	
65～74	男	0	0	1	1	0	0	0	2	4.8
	女	0	1	1	2	0	0	0	4	
	計	0	1	2	3	0	0	0	6	
75～84	男	3	0	0	2	1	2	0	8	32.3
	女	9	3	12	5	1	1	1	32	
	計	12	3	12	7	2	3	1	40	
85～89	男	0	0	2	1	0	1	1	6	35.5
	女	6	12	11	6	2	3	0	40	
	計	6	12	13	7	2	4	1	44	
90～	男	2	2	1	2	0	0	0	7	27.4
	女	3	7	8	3	1	3	2	27	
	計	5	9	9	5	1	3	2	34	
計	男	5	2	4	6	1	3	0	21	100.0
	女	18	23	31	16	4	7	3	103	
	計	23	25	35	22	5	10	3	124	

(令和4年3月分)

3. 移動方法別利用者数

		男	女	計
歩行	自力	16	78	94
	介助	1	11	12
車椅子	自力	0	3	3
	介助	4	11	15
計		21	103	124

(令和4年3月分)

4. 地域別利用者数

地域名	男	女	計
小川町1	0	4	4
小川町2	0	0	0
小川西町	13	58	71
小川東町	8	15	23
栄町	0	0	0
上水本町	1	0	1
学園西町	1	9	10
学園東町	0	0	0
仲町	0	0	0
津田町	2	8	10
たかの台	0	1	1
上水新町	0	1	1
東村山市	0	3	3
東大和市	0	0	0
計	25	99	124

(令和4年3月分)

行事

行事名	暑気払い（すいか割り大会）
日程	8月16日～8月21日
場所	活動室
参加人数	154名（延べ人数 ご利用者）
行事名	暑気払い（かき氷大会）
日程	8月23日～8月28日
場所	活動室
参加人数	155名（延べ利用者、職員）
行事名	夏祭り（ビアガーデン） ※新型コロナ感染予防のため中止。
日程	
場所	
参加人数	
行事名	忘年会 ※鍋作り中止し、余興のみ実施。
日程	12月22～28日
場所	小川ホーム活動室
参加人数	156名（延べ人数 ※ご利用者）
行事名	初詣 ※新型コロナ感染予防のため中止。代わりに、施設内に神社を作り、初詣実施。

小川ホーム ホームヘルプサービス 事業報告

運営概況

令和3年度の事業目標「稼働時間月平均 800 時間以上実施」を設定したが、前年度と同じく大幅に達成できなかった。令和3年度の月の稼働時間は 679.3 時間だった。

その主な原因としては、令和3年度は常勤のサービス提供責任者を増やし新規受付・訪問件数を増やす目標を立てていたが、9 月に入職した職員が 12 月で退職したため、常勤 2 名体制に戻った。また、新たに入職したヘルパーは 1 名、生活サポーターは 2 名、退職したヘルパーが 2 名となり、新規受付件数も増やすことが出来なかった。

この一年間で受け付けた新規依頼は 29 件と前年度の 31 件を下回った。内訳が要介護 12 件・要支援 17 件（旧国基準 14 件、小平市独自基準 3 件）となった。一年間の全体（実人数）は平成 31 年度が 1,338 件、令和2年度は 1,193 件、令和3年度は 1,170 件、全体（延べ回数）は平成 31 年度が 10,395 件、令和2年度 8,414 件、令和3年度は 8,182 件となり、令和2年度より更に減ってしまった。訪問回数の多い介護度の高い利用者が少ない中、体調を崩されて入院されたり、定期的にショートの利用をされたり、在宅での生活に不安を感じ施設を希望し入所されるケースも見られた。同時にヘルパーの慢性的な人材不足も挙げられる。非常勤ヘルパーの高齢化も進み、体力的に身体介護が負担となり、新規の依頼があった場合も身体介護や離れた地域の新規依頼を受けることが殆ど出来ず、断ることも多かった。また生活援助中心になってきているため、殆どのヘルプが週 1 回の生活援助になっていることから利用回数を増やすことも厳しい現状である。

令和3年度より「特定事業所加算Ⅰ」の加算を算定することが出来ず、「特定事業所加算Ⅱ」の加算を算定することになった。今後また、「特定事業者加算Ⅰ」を算定していくためには、重度（要介護 4 及び 5、日常生活認知度Ⅲa 以上）の利用者を多く受け入れていく必要があるが、現状としては難しい状況である。人材確保のために、今後も生活サポーター養成講座への参加や、生活サポーターからヘルパーへの移行など新しい雇用形態を具体的に検討していく必要性を常に強く感じている。

令和4年度は、「稼働時間月平均 700 時間以上、緩和型月 40 時間以上実施」を設定した。今のままでは達成には難しい為、積極的に新規利用者の獲得に努めていかないといけない状況である。前年度は身体のヘルプを増やすことが出来なかったのも、身体介護に不安があるヘルパーに対しては研修や同行を行うなどして、今年度は身体介護のヘルプも増やしていきたいと思っている。総合事業（旧国基準・小平独自基準）に関しては、3 月に生活サポーターが 2 名増え 5 名になったので、積極的に新規の確保に努めていきたいと思う。

1. 月別実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
件数	97	97	99	100	101	97	98
延べ人数	718	697	707	697	712	685	669
1日当り	32.6	33.2	32.1	31.7	32.4	31.1	31.9
	11月	12月	1月	2月	3月	合計	※R2年度
件数	96	96	96	97	96	1,170	1,193
延べ人数	667	690	643	599	706	8,190	8,448
1日当り	30.3	30.0	30.6	30.0	30.7	平均 31.4	平均 32.1

2. 要介護度・年齢別利用者数

年齢	性	事業対象	支援1	支援2	介護1	介護2	介護3	介護4	介護5	計	構成比%
～64	男	0	0	1	0	1	0	0	0	2	3.1
	女	0	0	1	0	0	0	0	0	1	
	計	0	0	2	0	1	0	0	0	3	
65～74	男	0	1	0	3	1	0	0	0	5	10.4
	女	0	1	1	2	1	0	0	0	5	
	計	0	2	1	5	2	0	0	0	10	
75～84	男	0	2	2	5	1	0	0	0	10	26.1
	女	0	4	5	3	3	0	0	0	15	
	計	0	6	7	8	4	0	0	0	25	
85～89	男	0	1	1	0	2	3	0	0	7	38.5
	女	0	8	9	7	3	1	2	0	30	
	計	0	9	10	7	5	4	2	0	37	
90～	男	0	1	2	0	2	1	0	0	6	21.9
	女	0	1	2	5	4	1	1	1	15	
	計	0	2	4	5	6	2	1	1	21	
計	男	0	5	6	8	7	4	0	0	30	100
	女	0	14	18	17	11	2	3	1	66	
	計	0	19	24	25	18	6	3	1	96	

(令和4年3月分)

3. 地域別利用者数

地域	男	女	計
小平市	30	66	96
他市	0	0	0
計	30	66	96

(令和4年3月分)

4. サービス内容別実績

サービス内容		件数	延人数	サービス 時間 (時間)
訪問型サービスⅣ	月 1 回～ 4 回	14	47	46.8
訪問型サービスⅤ	月 4 回～ 8 回	2	16	16.0
訪問型サービスⅥ	月 9 回～ 1 2 回	0	0	0.0
訪問型サービスⅠ	月 5 回以上	15	75	69.0
訪問型サービスⅡ	月 9 回以上	5	46	41.3
訪問型サービスⅢ	月 1 3 回以上	0	0	0.0
訪問型サービスⅣ/2	月 1 回～ 4 回 (緩和型)	2	7	7.0
訪問型サービスⅠ/2	月 5 回以上	5	25	25.0
身体介護 1	3 0 分未満	1	4	1.9
身体介護 2	3 0 分以上 1 時間未満	12	49	46.6
身体介護 3	1 時間以上 1 時間 3 0 分未満	2	6	8.8
身体介護 4	1 時間 3 0 分以上 2 時間未満	1	1	1.7
身体 1 生活 1	3 0 分以上 1 時間未満	4	18	18.4
身体 1 生活 2	1 時間以上 1 時間 3 0 分未満	0	0	0.0
身体 1 生活 3	1 時間 3 0 分以上 2 時間未満	0	0	0.0
身体 2 生活 1	1 時間以上 1 時間 3 0 分未満	3	10	15.0
身体 2 生活 2	1 時間 3 0 分以上 2 時間未満	2	9	18.0
身体 2 生活 3	2 時間以上 2 時間 3 0 分未満	0	0	0.0
身体 3 生活 1	1 時間 3 0 分以上 2 時間未満	0	0	0.0
身体 3 生活 2	2 時間以上 2 時間 3 0 分未満	0	0	0.0
身体 3 生活 3	2 時間 3 0 分以上 3 時間未満	0	0	0.0
身体 1 夜	3 0 分未満	1	8	3.8
身体 2 夜	3 0 分以上 1 時間未満	0	0	0.0
身体 1 生活 1 夜	3 0 分以上 1 時間未満	0	0	0.0
生活援助 2	3 0 分以上 1 時間未満	8	24	14.7
生活援助 3	1 時間以上 1 時間 3 0 分未満	38	345	345.3
生活援助 2 夜	3 0 分以上 1 時間未満	0	0	0.0
生活援助 3 夜	1 時間以上 1 時間 3 0 分未満	0	0	0.0
合 計		115	690	679.3

(令和4年3月分)

小川ホーム 介護計画センター 事業報告

運営概況

各事業目標に対して：

(1) 居宅介護支援(Ⅰ)の基準を維持する。

取扱件数40件未満を満たすことができた。

(2) 特定事業所加算(Ⅰ)または(Ⅱ)の基準を維持する。

算定要件の⑤「要介護3～5の割合が40%以上」について、月22～27%の割合となり(Ⅰ)の算定要件に満たなかった。(Ⅱ)を保つことができた。

(3) 認知症高齢者と中重度の要介護高齢者が安心して生活できるよう、地域でのケアマネジャーの役割を担う。

地域包括支援センターから依頼のあった困難ケース(老老介護、支援者が不在 など)に迅速に対応した。

- ・ 夫婦二人暮らしで、要介護者の夫の要望に、介護者である妻が対応し疲弊している方。アセスメントを繰り返し行い、問題点である「痛み」について国立精神神経医療研究センター病院や複数通院している整形外科などに連絡を取り、介護保険サービスを迅速に導入しながら、夫婦の在宅生活が継続できるよう対応した。
- ・ 新規の他者の受け入れが困難な要支援認定の方で、以前よりその方の家族の担当のケアマネジャーと信頼関係があったので、委託依頼を受け対応した。

(4) 現状のニーズを把握し、地域ニーズに即した介護サービスの展開をして行く。

日々のアセスメントやモニタリングにより、担当利用者のニーズ把握と介護サービスの展開を行った。地域特有の地域ニーズの分析までは至らなかった。

(5) 地域においてより良いサービスを提供する為に、必要な加算を算定できるように事業展開する。

初回加算 55件

特定事業所加算Ⅱ 2, 371件

入院時情報連携加算Ⅰ 30件 ・ Ⅱ 8件

退院退所加算Ⅰイ 2件

退院退所加算Ⅰロ 1件

通院時連携加算 8件

退院退所加算Ⅱイ、退院退所加算Ⅱロ、緊急時等居宅カンファレンス加算、ターミナルケアマネジメント加算の該当事例は無かった。

(6) 介護支援専門員実務研修における「ケアマネジメントの基礎技術に関する実習」等に協力、または協力体制を確保していく。

実習受入実績：東京都福祉保健財団からの依頼に対し、前期は令和3年8月5日に事業所にて実施した。後期は12月21日に依頼あり、都内で新型コロナウイルス感染症の流行の兆しがあり(実際に第6派となった)予防の為、規定に従い「実習受け入れ延期」を選択した。

実習受入事業所として東京都福祉保健財団に連絡をし、協力体制を確保している。

- (7)主任介護支援専門員の役割を認識し、地域包括支援センターの主任介護支援専門員と、連携、協力、協働しながら、地域のケアマネジャーに対してスーパービジョン(アセスメント力、質問力、気づきの提供等)を行い支援していく。また、困難ケースにおいても適切に対応できる体制を整えて行く。

小平市ケアプラン点検事業・ケアプラン指導研修事業に、主任介護支援専門員1名が指導的役割として参加。地域包括支援センターの主任介護支援専門員と協働で、市内の介護支援専門員のケアマネジメントの支援を行った。

困難ケースへの対応については、毎週行うミーティングにおいて月1回集中的に事例検討を行い、対応策を研鑽した。

- (8)平時からの医療機関との連携促進及び入退院時において更なる医療機関との連携促進により、医療と介護の連携を図る。

入院時には、北多摩北部保健医療圏共通様式の地域連携情報シートを使用し、入院機関に利用者の情報の提供(承諾を得たもの)とケアマネジャーの連絡先を伝え、連携を図った。入院時情報連携加算は計38件。

退院時には、退院調整看護師や医療相談員と連絡を取り合い、退院カンファレンスに積極的に参加し、退院後の利用者の生活について連携を行った。退院退所加算は計3件(新型コロナウイルス感染症予防の為にカンファレンスの開催が減少)だが、電話で病院MSWらとの情報交換・打ち合わせを行った。

在宅医療介護連携推進協議会主催のテーマ研修にオンライン参加し、在宅高齢者支援における知識と連携を深めた。

その他

- ・新型コロナウイルス感染症の影響で研修はオンライン研修が主となった。小平市ケアプラン研修、認知症ケア向上研修、ケアマネ学習会、ケアマネ交流会、ケアマネサロン等に参加した。
- ・事業所内研修としては、毎週1回行っている計画センターの全体ミーティングで、ケアマネジメント技術の向上に努めた。今年度は、令和3年3月31日に厚生労働省から公表された「居宅サービス計画書」等の記載要綱の変更の確認や、同じく厚労省から発信された「適切なケアマネジメント手法」について研鑽を行った。「適切なケアマネジメント手法」の勉強については、来年度も引き続き行っていく予定である。
- ・ケアマネジメントについて、介護保険サービスでは対応できない事柄について、様々なサービスを探し対応を行った(障害福祉サービス・権利擁護事業サービス等の公的サービスの利用支援等)。また、家族などの支援者が不在の利用者に対しては、手続きの支援を行った(JKKへの連絡、都営住宅申し込み支援、市からの通知の返送、有料老人ホーム事務手続き支援等)。
- ・要介護認定訪問調査については、新型コロナウイルス感染症感染予防の為、小平市に関しては「実施見合わせ」依頼を行った。

ケアプラン作成件数（当月の月間計画作成数より算定、支援の受託は0件）

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
件数	203	202	203	200	201	198	199
月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	※R2年度
件数	195	193	196	190	191	2,371	2,483

予防プラン受託件数(同上)

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
件数	0	0	0	1	1	1	2
月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	※R2年度
件数	3	0	3	3	3	17	0

1. 要介護度別分類

年齢	男女	支援1	支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
～59	男	0	0	0	0	1	0	0	1
	女	0	0	0	1	0	0	0	1
	計	0	0	0	1	1	0	0	2
60～64	男	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	0	0	1	0	0	0	0	1
	計	0	0	1	0	0	0	0	1
65～69	男	0	0	1	1	0	1	0	3
	女	0	0	0	0	0	0	1	1
	計	0	0	1	1	0	1	1	4
70～74	男	0	0	4	1	0	0	1	6
	女	0	0	3	4	1	3	0	11
	計	0	0	7	5	1	3	1	17
75～79	男	0	0	4	4	2	1	0	12
	女	0	0	4	5	1	0	2	11
	計	0	0	8	9	3	1	2	23
80～84	男	0	0	5	6	2	1	1	15
	女	0	0	15	3	2	3	1	24
	計	0	0	20	9	4	4	2	39
85～89	男	0	0	4	2	3	1	0	10
	女	0	0	20	12	3	7	0	42
	計	0	0	24	14	6	8	0	52
90～	男	0	0	4	5	3	1	0	13
	女	0	0	17	10	7	5	2	41
	計	0	0	21	15	10	6	2	54
合計	男	0	0	22	19	11	5	2	59
	女	0	0	60	35	14	18	0	133
	計	0	0	82	54	25	23	8	192

(令和4年3月分)

3. 地域別利用者数

地域	男	女	計
小平市	59	132	191
花見川区	0	1	1
計	59	133	192

(令和4年3月分)

小平市 地域包括支援センター 小川ホーム 事業報告

運営概況

小平市の事業方針・計画に基づいて重点項目（事業目標）を中心に業務を遂行してきた。地域包括支援センター（以下「センター」）には、地域包括ケアシステムの構築の推進を基に多種多様な総合的な相談ばかりでなく、地域作りにも積極的に取り組んできた。センターには、地域を作る使命がある為、特に地域作りについては、高齢者自身の介護予防の観点や地域との交流を図りながら地域に根差した活動を行った。年度の初めは、緊急事態宣言も発布されている中で、今年度は、コロナ禍での2年目という事もあり、コロナ禍でも出来る事を考え、オンラインでの会議や集合においても感染対策を講じながら、内容や取り組みを工夫しながら行事を実施してきた。

地域の高齢者がフレイル状態や外出自粛による閉じこもりからくる運動機能低下や食事の偏りによる栄養状態の悪化等の危険性の問題に発展する恐れもあり、感染によらない二次的な健康被害にならない様に、介護予防講座やフレトレにも力を入れて、取り組んできた結果、数多くの自主グループ化へと繋がっていった事は今年度の成果である。市内全域を見ても自主グループ化へつながった件数としては、中央西圏域が最多であった。

又地域の課題としてあがっていた事をテーマ設定型地域ケア会議で取り上げ、今回は高齢者が抱えるペット問題があり、「高齢者とペット」について焦点をあてた。高齢者とペットが幸せに暮らしていく為には、高齢者が元気なうちから、ペットが困らない為の準備とつながりを作り、そのために有効な仕組みやツールの開発をする事で、高齢者とペット双方の状態が把握できるようになる。その為のツールと必要な情報が共有される事で、適切に支援につながる仕組みづくりを行った。

（仕組みを理解するイメージ図と高齢者と共に、ペットについて考え、必要情報が把握できる情報カードの作成）その結果、新たな社会資源の創設となり、市が発行する「高齢者支援課だより」にも掲載され地域のケアマネジャーも使える、新たな社会資源ツールを作り出したことは、非常に大きな成果であった。

今後も地域づくりの一翼を担い、他職種、他機関とも連携・協働しながら、センターの役割を担っていきたい。

今年度の各事業の報告は以下のとおり。

○生活支援体制整備事業における生活支援コーディネーターの活動について

地域包括ケアシステムの構築が叫ばれている近年、地域作りの仕組みの構築が必要であり、小平市でも着々とその歩みを進めている。

令和3年度も、スタート時から新型コロナウイルス感染症の収束が見通せず、協議会、その他、住民主体の活動、地域との連携を図る働きかけなど、企画と中止を繰り返す一年となった。「会えない」「集まらない」「話し合う事が出来ない」状況の中、出来ることを模索しながら活動を継続してきた。これまで築いた関わりを途絶えさせない、地域のつながりの大切さを共有し合える場づくりを目指し、工夫して活動してきた。

又この小川西町地区での先行事例を元に、次の地域、小川東町地区でも㈱ブリヂストンに

協力を依頼し、立ち上げ準備をしている。(株)ブリヂストンは地域作りに貢献し、協力したいとの意向を示しており、このつながりを活かしながら、小川東町ならではの地域作りを地区民生委員にも協力をしてもらいつつ進めて行き、小川西町同様に生活支援体制整備事業の学習会から開始し協議会の開催へとつなげていきたい。

【二層協議会の開催】誰もが安心して暮らせる小川西町を考える会・みらい

日程	主な内容
4 月	ハイブリッド形式 「多世代の居場所＜誰でも食堂＞を小川西町につくろう」をテーマに、4 グループに分かれて協議
5 月	オンライン形式 「小平市の子供・若者を取り巻く現状と背策」について小平市子ども家庭部子育て支援課の講義
6 月	オンライン形式 「こども食堂 風鈴草」足立隆子さんのお話
7 月	ハイブリッド形式 「ブリヂストン AHL 企画推進・開発部」の活動について
9 月	少人数での会場開催 テーマ別の4つのグループに分かれ、日程も分けて 開催テーマ ①珈琲のある居場所 ②なかま🍀中宿 ③多世代の居場所 だれでも食堂 ④小川西町情報マップ
10 月	少人数での会場開催 同上
11 月	少人数での会場開催 同上
12 月	イベント開催 ①異才たちのアート展 見学ツアー②ほっと癒しのクリスマスコンサート
1 月	全員で集まる会を企画したが、感染拡大により中止
3 月	イベント開催 春の桜のコンサート

➤ 地域の会議、行事への参加

＜小川西町＞小平西ネット第一ブロック懇談会、

小川西町公民館講座企画委員会

この小川西町公民館事業企画委員会、企画シニア講座で、「認知症（入門編）～認知症で慌てないために～」という内容の5回連続講座を行った。

回	日 程	学習内容	講師
1	10 月 19 日	認知症にならないために	包括職員
2	10 月 26 日	地域の相談先について	包括職員
3	11 月 2 日	認知症の見守り体制について	包括職員
4	11 月 9 日	認知症予防食について学ぶ	管理栄養士住友
5	11 月 16 日	実践 認知症予防運動	包括職員

＜津田町＞津田公民館講座企画

＜学園西町＞学園西町地域連絡会

➤ 地域の居場所立ち上げ・運営支援

フレトレ立ち上げ、
フォローアップ
おれんじカフェ

➤ その他 テーマ設定型地域ケア会議「高齢者とペット」ウォーキングラリー・CSW との連携「地域づくり推進会議」・広報にしまち寄稿・こども食堂カモミールの協力

○介護予防見守りボランティアの積極的な活用とライフサポーター養成研修の関わり及び、地域におけるインフォーマルサービスの開発と積極的な活用について

見守りボランティア登録者は3月現在98名（男40名女58名）がいる。

前年度からすると、微増傾向であった。

➤ 通報・相談件数 20件

【登録者内訳】

小川西町：32名（男14名女18名）小川東町：21名（男6名女15名）津田町：9名（男5名女4名）学園西町：21名（男10名女11名）上水本町：15名（男5名女10名）

【見守りボランティアの交流会】

交流会開催の判断を、新型コロナウイルスの感染拡大状況に合わせて、その都度検討し可能な対応を行ってきた。今後も、新型コロナウイルスの感染状況により、交流会の開催、通報等の情報収集を引き続き行っていく。

見守りボランティアの登録は地域活動の起点になる傾向が高い。又介護予防リーダーや認知症支援リーダーは第二層協議会への参加など貴重な人材であり、その役割を担っている。今後も、地域の見守りの役割に加え、自身の介護予防の視点から、活動の場が広がるよう働きかける予定で、㈱ブリヂストンとの協働で地域活動の創出を進めていけるようにしていきたい。

【見守りボランティア交流会】

日程	主な内容	地区
4月23日	小平市新年度事業紹介 ワクチン最新情報 観光まちづくり協会パンフレット説明など	小川
5月	中止	津田
6月	中止	小川
7月	小平市消費清潔センターによる詐欺等消費者被害と対応の講話	津田
8月	小平市公共施設マネジメント課による小川駅西口開発事業（公共床）についての講話	小川
9月	「認知症の人の気持ち～思いを理解してかかわる」DVD視聴	津田
10月	同上	小川
11月	認知症ドキュメンタリー映画鑑賞	津田

12月	異才たちのアート展、ブリヂストンイノベーションギャラリー見学ツアー	小川
1月	中止	津田
2月	中止	小川
3月	ウォーキングラリー津田学西コース巡りを雨天のため中止し、代わりに、フレイル予防について学びと情報交換を実施	津田

○高齢者見守り事業

新型コロナウイルス感染が続いている中、感染対策を行いながら訪問又は電話による安否確認を行った。地域の高齢者把握はコロナ禍で把握しにくくなっているため、心配な方は民生委員との連携をとり行った

○総合相談支援業務及び権利擁護事業について

センターの知名度が広まる中で、本人や家族だけでなく、地域のケアマネジャーからの相談や、医療機関・障害や他の制度にまたがる相談まであり、平均34件/月で推移している。コロナ禍での2年目という事もあり、前年度よりも相談件数は多くなっていた。新型コロナウイルス感染拡大により、緊急事態宣言や蔓延防止等重点措置が発令した月の前後は新規相談が少なくなっている傾向があった。全体でいえば、延べ件数は前年度から比べると多くなっていて7%（282件）の増加、新規相談件数は6%減（29人減）だったものの、継続相談は約9%（311件）の増加している。

この事は、単純に終わらないケースが増えたり、ケースの困難化で色々な機関に連絡調整を図る必要があったり、迅速に対応が求められるケースが多かった。

具体的な総合相談の主な内容としては、認知症、ガン末期、精神疾患、多問題家族、8050問題、（90・60問題）ゴミ屋敷問題、権利擁護（虐待・消費者被害）問題等であった。特に虐待の問題は根深く、すぐには解決とはいかない為、何度も市と中央包括とのコア会議を繰り返して虐待対応にあたってきた。虐待認定の考え方や、コア会議の在り方、終結において、年度末に振り返りの事例検討も行う事ができたが、引き続き検討していく必要がある課題とも言える。

コロナ禍においては、潜在化しやすい虐待の問題は、介護する側の家族や、コロナで自粛生活を強いられながら、これまで以上に介護に気を使わなければならない為、ストレスをため込んでいる現状があった。それが虐待を招く要因のひとつでもあり、今年度は前年度より多くの事例にあたり対応をしてきた。

他問題家族においても、同居家族が精神疾患を患っていて、医療を中断していたり、適切なサービスの利用や障害者手帳の申請をしていなかったりと、包括だけでは、対応しづらい事例も多くあり、障害支援課、保健所、権利擁護センターとも連携をして対応にあたった。

又、今後増加するであろう、身寄りがいない（キーパーソンが不在）高齢者が、サービスを使う時に生じる財産と契約の管理、死後の手続きに関する事例も課題としてあがっている。地域の高齢者が安心して生活が出来る様にして、地域のケアマネジャーやセンターが業務範囲を超えて対応せざるを得ない状況にならない様にしていく必要がある。

今年度の基幹型地域ケア会議も、オンラインでの開催。「いきいきとした生活を地域で送る為の居場所の場について考える」であった。小平市の課題としても、居場所の必要性が挙

げられている中で、公共施設だけの利用だけでは拡充が難しい状況である。高齢者がいつまでも地域で過ごすために、今よりも居場所を増やすには、どのような場が考えられるか、どのように働きかけていけば良いのかを、民生委員、居宅、商工会、企業、大学、各種関係機関が集まり、グループに分かれて話し合いを行った。

○包括的・継続的ケアマネジメント業務について

今年度も昨年に引き続き、新型コロナの感染予防は重点課題であることに変わりなく、集合しての研修などはできなかったが、リモートでの研修形態に慣れてきたケアマネ事業所も多く、参加人数はコロナ前に比べて安定的だった。リモートも慣れれば移動の時間が節約できることなどメリットも大きく今後もこの形態は続くことと思われる。

ただ、事例検討会に関しては事例の配布を市から止められたため研修当日に共有画面で読むことになり参加者は事例の読み込みが十分できなかった。今後も事例検討会は積極的に行われると思うが、個人情報の扱いについては小平市の地域支援担当にも前向きに検討してもらえよう包括の主任ケアマネ部会でも提案した。

また、地域のケアマネジャーから個別に電話での相談や、連携して訪問することもあり、昨年度に比べて多職種との連携、ケアマネジャー同士の関係作りに役立つ研修の企画と運営の機会は多く持てた。

内容は以下のとおり。

[全体研修]		市内の在勤ケアマネジャーを対象とした研修	令和3年度
日程	テーマ	講師	
5月14日	リ・アセスメント支援シートを活用した自己点検研修 ①	中央包括 荒井氏	
6月16日	西圏域ケアマネサロン お困りごと相談会	ケアマネサロン準備会委員 けやき包括支援センター 包括支援センター 小川ホーム	
7月2日	リ・アセスメント支援シートを活用した自己点検研修 ②	主任ケアマネ	
7月15日	小平市ケアマネ連絡会コラボ研修 コロナ禍から1年。改めてケアマネの役割について考えよう	東京都介護支援専門員研究協議会 理事長 小島 操 氏	
7月27日	リ・アセスメント支援シートを活用した自己点検研修 ③	主任ケアマネ	
8月27日	ファシリテーションを学ぼう ファシリテーションを活用した指導実践の振り返りから学びを深めよう	神奈川県立保健福祉大学准教授 柴山 志穂美 氏	

9月2日	西圏域ケアマネ交流会 コミュニティーソーシャルワーカーって何する人？ ～CSWの仕事を知り連携しながらより良い支援につなげよう～	社会福祉協議会 上原 氏とCSWの皆さん
9月28日	西圏域ケアマネサロン サービス事業所さんとの交流会	各サービス事業所相談員 包括主任介護支援専門員
10月18日	介護者支援について考えよう ヤングケアラーの実態を知り支援に生かそう！	白梅学園大学教授 森山千賀子 氏
11月18日	小平市ケアプラン研修 慢性心不全について学ぼう ～心臓の病気を持つ方の生活を支えるために～	公立昭和病院 峯岸 夕紀 氏
12月17日	東圏域 ケアマネ交流会 権利擁護ってなに？相談員さんと連携を深めて 明日からのケアマネジメントに役立てようパート②	権利擁護センター小平 荒井 氏
令和4年 1月20日	西圏域ケアマネサロン 事例検討会を体験しよう！	医師会ケアマネジメント センター 田見 氏
2月4日	5包括合同ケアマネ交流会 「障害福祉サービスから介護保険サービスへ 円滑な連携で切れ目のない支援を考える！」 ～相談支援専門員と一緒に作ってみようケアプラン～	市内 相談支援専門員 あさやけ 花形 氏 5包括主任ケアマネ 小平市内主任ケアマネ グループワーク
3月18日	主任介護専門員研修事例検討会	講師 一井 圭 氏 事例提供者 赤瀬 CM (ケアプラン富士)

○介護予防ケアマネジメント業務・第1号介護予防支援事業について

概ね自前ケースが平均338件と委託ケースは平均98件と推移している。総件数としては、前年度から2%の減であるが、ケアプランの入れ替わりが多くあった事が要因の一つと考察される。委託事業所は減少傾向で、前年度から7%減となり、要支援のケースを受け持ってくれる事業所は少数傾向が続き、委託する事に苦労を要した。
委託事業所においては、市役所にもなげかけて、原因を探り、業務改善も含めて検討段階に入った。

○家族介護教室にいては、地域のニーズや課題を勘案しつつ開催した。

日程	テーマ	講師
6月24日	認知症サポーター養成講座（割り当て分）	包括職員
7月15日	熱中症予防と夏バテ予防～夏場の健康管理について～	包括職員/管理栄養士 住友満美子
2月4日	介護施設の基礎知識～高齢者向けの住まいの種類と選び方のポイント	介護施設研究所 /下田麻由子

○地域に発信しているものについて

●市民向けに新型コロナウイルス感染拡大防止に伴い、外出を控えている高齢者や、介護保険サービスの利用を自粛している高齢者向けに、介護予防のために実施したこと。

・ウォーキングラリーは、前年度作成した2コースに加え、＜津田・学西コース＞を作成した。コースの設定については、介護予防リーダーに協力してもらい、実際に一緒にコースを歩き、検討した。

さらに、二層協議会＜みらい＞の「小川西町の情報マップを作るグループ」が協力し、小川西町ウォーキングラリー＜中宿コース＞はイラスト入りのカラー版情報マップも兼ねたものとなり、中央西圏域のウォーキングラリーは4コースまで広がった。

○行事関係で地域に発信しているものについて

認知症カフェ（おれんじカフェおがわ）は、ほのぼの館で感染対策をしながら、体操や工芸などを年12回実施した。

サロンは参加者が多いため、コロナ禍において感染拡大しないように配慮し、ほのぼの館で介護予防体操やゲームを2回実施した。

介護予防講座は、ブリヂストンスポーツのインストラクターに、小川東町、学園西町、上水本町で各2回講座により運動継続の必要性を伝えてもらい、それぞれフレトレのグループ化につながった。

フレトレは、介護予防講座や地域の運動に興味のある方たちに、フレトレ準備講座を行ってもらい、3回の応援講座を経て、圏域内で8グループが立ち上がった。その後のフォロー講座も実施している。

介護予防リーダーとは、養成講座を通して交流し、フレトレや地域の体操などに参加している。

コロナ禍で、地域の方たちが参加をためらうのではないかと考えていたが、思った以上に活動意欲があり、参加を希望している人たちが多かった。感染対策をしながら、クラスターも発生せずたくさんの行事ができ、新しいつながりも生まれ、交流を深めることができた。今後も、気をつけながら活動していきたい。

○認知症相談会（物忘れ相談会）・もの忘れチェック会について

国立精神神経医療研究センターの医師や認知症コーディネーターとリモートで行い、会場は感染対策を行い実施した。

日程	テーマ
7月27日	もの忘れチェック会：9名
9月14日	物忘れ相談会：3名
2月22日	もの忘れチェック会：9名

○認知症地域支援推進員関係の活動について

認知症支援リーダーの方と交流会を通じて意見交換を行ったが、コロナ禍で数々の行事や集まりが出来なくなり、認知症支援リーダーの方々のモチベーションも低下してきていた。

今年度交流会を定期的開催したことで、認知症高齢者や地域のために活動したいという、認知症支援リーダーの方々の強い思いを確認することができた。

来年度はおれんじカフェが2カ所増える予定だが、1カ所でも多く認知症の方の居場所づくりを行ってきたい。

認知症の方が孤立しないような地域づくりや地域住民の認知症への理解を深めていくが必要であり、その為のインフォーマルサポートの拡充が課題である。

【認知症支援リーダー交流会】

日程	テーマ
4月6日	認知症支援リーダーの活動状況共有 意見交換 アンケート配布
7月6日	カフェ立ち上げや認知症支援リーダーの役割について確認（全体）
9月7日・9月22日	認知症支援リーダー地域分け（小川西町・東町）（上水・学西・津田）し、認知症についての勉強会開催
12月10日	おれんじカフェ立ち上げについての話し合い（全体）
1月12日	上鈴木自治会集会所見学（上水・学西・津田）
1月26日	ITフォレスト見学（小川西町・東町）（カフェ立ち上げに向けた活動場所の確認）
3月16日	上水本町地域センター おれんじカフェ立ち上げについて
3月23日	ITフォレスト おれんじカフェ立ち上げについて

【おれんじカフェ立ち上げ】

ITフォレスト地域交流室（小川東町）・上水本町地域センター（上水本町）の2カ所で新たにおれんじカフェ立ち上げに向けて、認知症支援リーダーと話し合いを行った。

上水本町地域センターは、令和4年6月のカフェ立ち上げに向けて準備を進めており、ITフォレスト地域交流室カフェ立ち上げは、来年度中の開催に向けて活動中。

ワーカーズコープからおれんじカフェ立ち上げについてのお話を頂き、講座の開催やカフェ立ち上げの為の、情報提供を行っている。

【おれんじカフェ】

令和3年度は全12回。毎月第1火曜日、ほのぼの館でおれんじカフェを開催。

（5月は開催できず、6月に2回実施）

コロナ禍ということもあり、参加人数は5～10名程度で実施。

【認知症本人家族交流会】

令和3年11月30日、ほのぼの館で認知症本人家族交流会を開催。

本人2名 家族5名参加

【認知症サポーター養成講座】

R3.09.21 ヘルプ事業所向けの講座開催。（包括職員）

R3.11.15 地域住民に対しオンライン講座開催。（包括職員）

R3.10.24 キャラバンメイト2名が、自治会の方を対象とした講座を開催。
開催までの支援。

【認知症部会の参加】

小平市5包括の認知症地域支援推進員・看護師、保健師と小平市地域支援担当の保健師と情報共有を行っている。

【若年性認知症】

東京都多摩若年性認知症総合支援センターと連携し、若年性認知症の方に対する情報共有・支援体制の確認を行った。現在も連携しながら支援を継続中。

【地域の認知症高齢者相談対応】

本人や家族、医療機関・民生委員・金融機関・警察・地域住民等からの相談や通報を受け、継続的な見守りや介護保険サービスの導入・インフォーマルサービスの提供・提案等、実施した。

【研修・その他】

オンライン研修が整い始めたこともあり、医療と介護との多職種連携事業（研修）も含め、外部諸団体の会議（全国社会福祉協議会の各種委員会や東京都高齢者福祉部会の各種委員会）にも参加し、有益な情報収集を行う事ができた。

その他、次年度においてもオンライン研修を取り入れながら、個々の研修ニーズや課題を把握し、センター職員各々のスキルアップを更に進めて行きながら、小川ホームが地域の中核機関として近隣住民から信頼され、必要不可欠な存在として機能し続けていきたい。

1. ケアプラン作成件数

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
件数	442	443	437	435	436	435	435
内委託	101	100	95	95	96	97	97
月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	※R2年度
件数	434	439	445	431	431	5,243	5,361
内委託	97	98	101	98	104	1,179	1,275

2. 要介護度分類

	～59歳		60～64		65～69		70～74		75～79		80～84		85～89		90～		合計		
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計
事業	/	/	/	/	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1
支援1	0	0	0	0	2	3	4	4	8	18	8	47	8	45	14	16	44	133	177
支援2	3	1	1	1	4	4	6	10	11	17	13	41	14	67	15	45	67	186	253
合計	3	1	1	1	6	7	10	14	19	35	21	88	22	112	29	62	111	320	431

令和4年3月31日現在

相談実績

相談件数（件）			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間
	当月相談者数		366	334	374	335	298	367	420	356	322	388	162	446	4168
内 訳	当月	新規相談者	27	29	24	39	29	28	25	38	35	48	23	48	393
		継続相談者	339	305	350	296	269	339	395	318	287	340	139	398	3775
相 談 内 訳	自立支援サービス	給食サービス	10	5	3	9	8	7	5	3	6	3	0	5	63
		住宅改修	5	1	1	2	0	0	2	1	1	3	2	3	21
		福祉用具	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
		緊急通報・火災安全システム	5	6	0	2	1	0	1	1	1	1	0	0	18
		おむつ支給等事業	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		高齢者見守り事業	12	9	12	13	4	21	14	10	14	13	10	14	146
		その他自立支援サービス等	2	1	2	5	1	4	4	6	0	4	0	7	36
	介護保険	施設サービス	28	21	37	24	21	17	27	26	27	18	25	28	299
		在宅サービス	192	173	182	151	178	158	184	153	133	153	132	226	2015
		地域密着サービス	5	3	6	2	2	6	6	6	3	6	15	18	78
		ケアマネ・ケアプランの相談	61	55	49	60	43	62	74	62	56	60	52	93	727
		申請等の相談	101	95	58	58	59	84	71	79	59	80	52	103	899
	介護予防・生活支援	訪問型サービス	0	0	0	1	0	0	6	0	2	1	0	0	10
		通所型サービス	3	0	1	4	0	0	3	1	0	0	0	10	22
	予防一般介護事業	ADL・IADLに関する相談	3	1	1	4	1	2	7	7	3	1	1	6	37
		社会参加に関する相談	1	0	0	1	1	2	7	8	6	5	1	8	40
	認知症に関する相談	症状・生活に関する相談	41	35	35	29	51	45	40	31	33	31	27	53	398
		受診・治療・服薬に関する相談	18	24	18	16	21	18	13	11	14	9	12	19	193
		徘徊に関する相談	3	4	1	0	0	0	0	1	0	1	1	3	14
		上記以外の相談	5	2	9	2	4	13	3	5	3	13	6	5	70
	権利擁護	地域福祉権利擁護	1	7	4	6	6	3	4	5	3	2	1	6	48
		成年後見	8	10	8	7	5	6	4	12	12	4	6	10	92
		高齢者虐待	5	4	17	11	6	15	6	5	7	3	5	3	82
		消費者相談	0	0	5	3	1	2	3	1	1	0	3	0	19
	その他	苦情	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	3
		安否確認・緊急対応	12	10	5	11	11	9	19	4	11	6	18	9	125
		住環境に関する相談	3	4	2	5	1	6	4	4	6	4	0	5	44
		生活困窮者に関する相談	3	4	0	3	5	2	1	0	2	2	0	0	22
		緊急医療情報キットに関する相談	0	1	0	2	0	2	1	4	4	0	1	4	19
		医療関係	54	48	59	41	69	66	55	63	47	70	58	69	699
		他制度の相談	12	9	9	6	7	11	7	14	8	12	10	25	130
		介護者自身(介護疲れ、介護離職)に関する相談	10	8	7	5	14	8	14	8	5	6	5	5	95
		上記以外の相談	9	15	8	19	3	8	9	14	12	13	8	22	140

相談件数（件）			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間
予防給付	要支援1	予防ケアプラン作成	71	66	62	63	64	67	67	62	60	63	59	62	766
		予防ケアプラン作成委託	15	15	13	13	13	13	13	15	16	16	18	21	181
		ケアプラン作成委託事業者数(3月31日現在の数)	15	15	15	13	13	13	13	15	16	15	16	20	1791
	要支援2	予防ケアプラン作成	128	127	126	130	134	121	127	131	130	134	126	128	1542
		予防ケアプラン作成委託	37	36	36	34	35	39	39	40	40	41	39	38	454
		ケアプラン作成委託事業者数(3月現在)	33	33	33	30	31	33	35	36	36	38	33	33	404
		セルフケアプラン作成件数	1	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	3
介護予防日常生活支援事業	事業対象者	ケアプラン A	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
		ケアプラン B	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		ケアプラン C	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		総合事業ケアプラン作成・委託	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		総合事業作成委託事業者(3月現在)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	要支援1	ケアプラン A	67	68	64	66	64	63	64	65	70	71	76	81	819
		ケアプラン B	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		ケアプラン C	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		総合事業ケアプラン作成・委託	20	19	20	20	22	23	23	18	17	17	15	18	232
		総合事業作成委託事業者(3月現在)	18	19	19	17	18	17	19	20	22	22	22	17	230
	要支援2	ケアプラン A	76	78	84	78	74	75	77	77	80	72	67	61	899
		ケアプラン B	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		ケアプラン C	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		総合事業ケアプラン作成・委託	28	27	25	27	25	23	22	24	25	25	25	26	302
		総合事業作成委託事業者（3月現在）	24	24	22	24	22	19	20	21	24	20	21	24	265
ケアマネ業務	事業対象者	1	1	0	0	2	0	0	1	0	0	0	2	7	
	要支援1	201	174	182	185	171	202	170	194	208	181	194	212	2274	
	要支援2	318	315	253	297	279	251	370	332	298	284	247	348	3592	
	申請中・退院調整等	15	10	4	13	19	19	12	27	18	20	15	17	189	
	サービス担当者会議・ケース会議	15	16	18	12	18	24	20	22	24	21	17	23	230	
介護保険申請件数			54	80	59	48	79	80	61	78	65	83	50	72	809
事業対象者 基本チェックリスト実施			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

実態把握に関する対応		0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	29	29	62
マ ネ ジ メ ン ト 事 業	ケアプラン作成指導・ 個別指導・相談	15	16	11	5	4	7	3	17	8	6	7	13	112
	困難事例への指導助言	13	13	14	14	10	12	18	8	12	24	20	15	173
	サービス担当者会議・ ケース会議	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2	4	9
地 域 ケ ア 会 議	地域ケア会議 ＜個別ケース検討＞	1	0	1	0	1	0	1	0	0	0	0	0	4
	地域ケア推進会議[圏域 内テーマ設定会議]	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	1	4
	地域ケア推進会議[第2 層生活支援体制整備事業 協議会]	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

この事業報告書は原本と相違ないことを証明します。

令和4年6月16日

東京都小平市小川西町2-35-2

社会福祉法人緑友会

理事長 増田英男